

## Hop! 基礎確認テスト .....p.6-7

- 1 ① fly ② live ③ know ④ am  
⑤ are ⑥ is ⑦ runs ⑧ has  
⑨ brother, tennis ⑩ girl, singer

## 解説

〈主語＋動詞〉ではじまるのが英語の文の基本形です。動詞のあとに「目的語」(～を)がつくこともあります。

- ①主語が Birds (鳥たちは) で、動詞が fly (飛ぶ) の文にする。  
②主語が I (私は) で、動詞が live (住んでいる) の文にする。そのあとの here (ここには)、目的語ではなくて副詞。  
③主語が I (私は) で、動詞が know (知っている) の文にする。know には目的語の Tom (トム) がついている。

動詞の中には「be動詞」という特別な動詞があります。be動詞のあとには必ず「補語」(＝主語を説明することば) がきます。be動詞は主語によって形が変わります。

- ④主語が I (私は) なので、be動詞は am (～である) にする。  
⑤主語が You (あなたは) なので、be動詞は are (～である) にする。  
⑥主語が He (彼は) なので、be動詞は is (～である) にする。

一般動詞は、主語が「3人称(私・あなた以外の人やもの)」で「単数(1人・1つ)」のとき、形が変化します。ふつうは語尾に -s がつきます。

- ⑦主語の He (彼は) は3人称(私・あなた以外)で単数(1人)なので、動詞の run の語尾に

-s をつける。

- ⑧主語の She (彼女は) は3人称で単数なので、動詞の have を has にする。これは特殊な変化。

「名詞」は文の中で、「主語」「目的語」「補語」になるなど、重要な役割をします。

- ⑨名詞の brother (兄) が主語で、同じく名詞の tennis (テニス) が目的語の文。  
⑩名詞の girl (少女) が主語で、同じく名詞の singer (歌手) が補語の文。

- 2 ① It ② I, me ③ kind, girl  
④ is, kind ⑤ well ⑥ very  
⑦ doesn't, play ⑧ is, not  
⑨ Do, you, like, don't  
⑩ Are, you, are

## 解説

英語ではふつう、同じ名詞をくり返す代わりに「代名詞」を使います。

- ①動物(ここでは a cat) に対しては、代名詞はふつう it を使う。  
②代名詞は、主語として使うときと目的語として使うときでは、形が異なることが多い。「私は」は I だが、「私を」は me となる。

形容詞には、〈形容詞＋名詞〉の形で名詞を修飾する用法と、〈主語＋be動詞＋形容詞〉の形で主語を説明する用法があります。

- ③〈形容詞(kind)＋名詞(girl)〉の形にする。この形のときは、a は形容詞の前におく。  
④〈主語(She)＋be動詞(is)＋形容詞(kind)〉の形にする。この形容詞は補語。

副詞の多くは、動詞を修飾してさまざまな意味(いつ、どこで、どんなふうに)を表します。また、形容詞や副詞を修飾する副詞もあります。

- ⑤「よく知っている」の「よく」を副詞の well

で表す。動詞の know を修飾。

- ⑥「とてもいい」の「とても」を副詞の very で表す。形容詞の nice を修飾。

否定文のつくり方：一般動詞では、動詞の前に don't や doesn't をおき、be動詞では、be動詞のあとに not をおきます。

- ⑦〈doesn't＋一般動詞(play)〉の形にする。主語が3人称で単数のときは doesn't を使う。doesn't のあとの動詞は原形。  
⑧主語が He なので、be動詞は is にする。否定文なので、そのあとに not をおく。なお、is not は isn't という短縮形にできる。

疑問文のつくり方：一般動詞では、〈Do(Does)＋主語＋動詞…?〉の形にし、be動詞では、〈Be動詞＋主語…?〉の形にします。

- ⑨一般動詞の疑問文。〈Do＋主語(you)＋動詞(like)…?〉の形にする。答えの文は否定なので、No, I don't. とする。  
⑩be動詞の疑問文。〈Be動詞(Are)＋主語(you)…?〉の形にする。答えの文は肯定なので、Yes, we are. とする。

## Step! 実力養成テスト ..... p.8-9

- 1 ① am sleepy ② sleep ③ are busy  
④ know

## 解説

一般動詞の文と be動詞の文のちがいを、また動詞と形容詞の文の中での役割のちがいを、ここでしっかりと確認しましょう。

- ①sleepy は形容詞なので、〈主語＋be動詞＋補語(形容詞)〉の形の文にする。now は副詞。  
②sleep は動詞なので、〈主語＋動詞(sleep)…〉の形の文にする。well は副詞。  
③busy は形容詞なので、〈主語＋be動詞＋補語(形容詞)〉の形の文にする。today は副詞。

- ④know は動詞なので、〈主語＋動詞(know)…〉の形の文にする。well は副詞。

- 2 ① is ② am ③ are ④ are ⑤ is  
⑥ are

## 解説

be動詞は、主語の人称と数によって正しく使い分けなくてはなりません。

- ①主語の Emily は3人称・単数なので、be動詞は is にする。  
②主語の I は1人称・単数なので、be動詞は am にする。  
③この文の主語は Emily and I。主語が複数なときは、be動詞は are にする。  
④主語の They は3人称・複数なので、be動詞は are にする。  
⑤この文の主語 Your dog は3人称・単数なので、be動詞は is にする。  
⑥「(1足の)くつ」を表す shoes は複数。主語の Your shoes が複数なので、be動詞は are にする。

- 3 ① plays ② love ③ studies ④ has  
⑤ teaches

## 解説

主語が3人称で単数のとき、一般動詞は形が変化するので注意しましょう。

- ①主語の My brother (私の兄) は3人称・単数なので、play を plays とする。  
②主語の His parents (彼の両親) は3人称だが複数なので、love はそのまま。  
③主語の She は3人称・単数なので、study を studies とする。語尾が〈子音字＋y〉の動詞は、y を i に変えて -es をつける。  
④主語の This house (この家) は3人称・単数なので、have を has にする。  
⑤主語の Mr. Smith (スミス先生) は3人称・

単数なので、teach を teaches にする。語尾が ch の動詞は -es をつける。

- ④ ① This book is useful.
- ② We study English hard.
- ③ Mr. Smith is a good teacher.
- ④ That man is very rich.
- ⑤ She is not my classmate.

#### 解説

名詞、形容詞、副詞などの品詞が、文の中でどのような位置におかれ、どのようなはたらきをするかをしっかり確認しましょう。

- ① book (本) は名詞。This book (この本) とし、文の主語にする。
- ② hard (一生けんめいに、熱心に) は副詞。〈動詞 (study) + 目的語 (English)〉のあとにおく。動詞を修飾。
- ③ good (よい) は形容詞。名詞の teacher (先生) の前におく。名詞を修飾。
- ④ very (とても) は副詞。形容詞の rich (金持ち) の前におく。形容詞を修飾。
- ⑤ be動詞の文では、否定を表す not は be動詞のあとにおく。

### Jump! 実戦力テスト ..... p.10-11

- ① ① ウ ② イ ③ ウ ④ エ ⑤ ア

#### 解説

- ① 「これは私の本です。それ (= その本) はとてもおもしろいです」：前に出た名詞はふつう代名詞で表す。空所には「それは」を意味する代名詞 It を入れる。
- ② 「エミはすてきな女の子です。私たちは彼女が大好きです」：空所には目的格の (= 目的語になる) 人称代名詞が入る。女性の3人称・単数・目的格の人称代名詞は her。
- ③ 「トムとジョンは親友です。彼らはサッカー

が好きです」：空所には主格の (= 主語になる) 人称代名詞が入る。主語は3人称・複数なので人称代名詞 They を入れる。

- ④ 「ベティーはネコが好きではありません」：ここは一般動詞 (like) の否定文にする。主語が3人称・単数なので、〈主語 + doesn't + 動詞 (原形) ...〉の形にする。
- ⑤ 「あなたのお母さんは教師ですか」：ここは be動詞の疑問文にする。主語 (your mother) が3人称・単数なので、〈Is + 主語 ...?〉の形にする。

- ② ① My father goes to work early.
- ② This is a good movie.
- ③ He doesn't play the guitar.
- ④ Her voice is very beautiful.
- ⑤ Are you busy this afternoon?

#### 解説

- ① 「私の父は朝早く仕事に行きます」：主語の My father (私の父) は3人称・単数なので、動詞の go は goes にする。
- ② 「これはよい映画です」：名詞の movie が補語になっている文。その名詞を形容詞の good が修飾している。このような場合、名詞の前につける a (1つの) を、形容詞の前におく。
- ③ 「彼はギターをひきません」：主語の He は3人称・単数だが、doesn't のあとにくる動詞は原形となるため、-s はつかない。
- ④ 「彼女の声はとても美しい」：形容詞の beautiful が補語になっている文 (その形容詞を副詞の very が修飾している)。補語となる形容詞には「1つの」を意味する a はつけない。
- ⑤ 「きょうの午後あなたはいそがしいですか」：busy (いそがしい) は形容詞なので、you を主語にした疑問文は 〈Do you + 動詞 ...?〉ではなく、〈Are you + 補語 (形容詞) ...?〉の

形にする。

- ③ ① That man is very kind.
- ② Kyoto is a very beautiful town.
- ③ My brother runs very fast.
- ④ My sister speaks English well.
- ⑤ The weather is not good today.
- ⑥ Is your father a baseball player?

#### 解説

文を組み立てる問題では、文の要 (かなめ) となる動詞に注目します。その動詞が一般動詞か be動詞かで、文の骨組みとなる〈主語 + 動詞 ...〉の形が決まってきます。

- ① あたえられた語の中に is があることから、文の骨組みは That man is ~ (あの男の人は~だ) だとわかる。残りの単語で is のあとにくる補語 (very kind) をつくる。
- ② あたえられた語の中に is があることから、文の骨組みは Kyoto is ~ (京都は~だ) だとわかる。残りの単語で is のあとにくる補語 (a very beautiful town) をつくる。
- ③ あたえられた語の中に runs があることから、文の骨組みは My brother runs ~ (私の弟は~走る) だとわかる。残りの単語は2つとも副詞。副詞の very (とても) が副詞の fast (速く) を修飾する形にする。
- ④ あたえられた語の中に speaks があることから、文の骨組みは My sister speaks ~ (私の姉は~を話す) だとわかる。残りの単語を〈目的語 (English) + 副詞 (well)〉の順に並べて文を完成させる。
- ⑤ あたえられた語の中に is があり、否定文であることから、文の骨組みは The weather is not ~ (天気は~ではない) だとわかる。残りの単語を〈補語 (good) + 副詞 (today)〉

の順に並べて文を完成させる。

- ⑥ あたえられた語の中に is があり、疑問文であることから、文の骨組みは Is your father ~? (あなたのお父さんは~ですか) だとわかる。残りの単語で補語 (a baseball player) をつくる。

- ④ ① This is a wonderful story.
- ② My mother is a good cook.
- ③ She doesn't live in this town.
- ④ Does her father teach English?

#### 解説

- ① 「この物語は素晴らしい」⇒「これは素晴らしい物語だ」：もとの文では主語だった名詞の story を、補語にして書きかえる。wonderful story の前に a をつけることも忘れないように。
- ② 「私の母はじょうずに料理をする」⇒「私の母はじょうずな料理人です」：一般動詞の文を be動詞の文に書きかえる。動詞の cook (料理する) の意味は、名詞の cook (料理人、料理をする人) を使って表し、副詞の well (じょうずに) の意味は、形容詞の good (じょうずな) を使って表す。
- ③ 「彼女はこの町に住んでいる」⇒「彼女はこの町に住んでいない」：一般動詞の否定文の形にする。主語 (She) が3人称・単数なので、動詞の前に doesn't をおく。そして、そのあとの動詞を原形 (live) にする。
- ④ 「彼女のお父さんは英語を教えている」⇒「彼女のお父さんは英語を教えているのですか」：一般動詞の疑問文の形にする。主語 (her father) が3人称・単数なので、主語の前 (= 文頭) に Does をおく。そして、〈Does + 主語〉のあとの動詞を原形 (teach) にする。

## Hop! 基礎確認テスト ..... p.14-15

- 1 ① visited ② went ③ didn't, watch  
④ Did, come, did ⑤ was ⑥ Were, was  
⑦ will, help ⑧ will, not, rain ⑨ Will, be, will ⑩ Will[Can], you, open

## 解説

動詞の過去形のつくり方、過去の文(否定文・疑問文もふくめて)のつくり方を、ここで確認しておきましょう。

- ① 動詞を過去形にするときは、ふつう語尾に -ed をつける。  
「訪れる」を意味する動詞 visit の過去形も、語尾に -ed をつけてつくる。
- ② 「行く」を意味する動詞 go の過去形は went。不規則な変化をする動詞の1つ。
- ③ 「見なかった」という過去の否定文なので、didn't を動詞の前におく。didn't のあとの動詞は原形になる。
- ④ 「来ましたか」という過去の疑問文なので、Did ではじめる。〈Did + 主語〉のあとの動詞は原形になる。
- ⑤ be 動詞の過去の文。主語が The movie なので、be 動詞は was にする。  
なお、was は is と am の過去形。
- ⑥ be 動詞の疑問文なので、be 動詞を主語の前におく。過去の疑問文で主語が you なので、be 動詞は Were にする。  
なお、were は are の過去形。

未来の文(否定文・疑問文もふくめて)のつくり方を、ここで確認しておきましょう。助動詞の will を使うのがポイントです。

- ⑦ 「助ける」を意味する動詞 help の前に助動

詞の will をおく。助動詞のあとの動詞は原形になるので、主語は He だが、helps とはしない。

- ⑧ 未来の否定文は、will のあとに not をおいてつくる。動詞はそのあとにくる。
- ⑨ 未来の疑問文は、will を文頭にもってきて、そのあとに〈主語+動詞の原形〉をつづける。be 動詞の原形は be。
- ⑩ 〈Will you + 動詞の原形...?〉で「~していただけますか」という“依頼”の意味を表すことができる。動詞は open を使う。

- 2 ① are, playing ② Is, watching, is  
③ leaving ④ is, playing  
⑤ can, play ⑥ must, finish  
⑦ must, not, go ⑧ Can, she, play, can  
⑨ Shall, I ⑩ Could[Would], you

## 解説

動詞の現在形では、現在進行中の動作を表すことはできません。それを表すには〈be 動詞 + ~ing〉の形にする必要があります。

- ① 「野球をしている」は、進行中の動作を表す文なので、be 動詞(ここでは are)に ~ing がつづく形にする。
- ② 現在進行形の疑問文。be 動詞(ここでは Is) を文頭にもってくる。
- ③ 現在進行形は、近い未来の予定などを表すことがある。ここでは、その用法を使い、leave を ing 形にする。
- ④ 現在進行形は、副詞の always といっしょに使うと、「いつも~してばかりいる」(動作の反復)という意味になる。ここではその用法を使い、play を ing 形にする。

動詞の前にさまざまな助動詞をおくことによって、可能・義務・許容などの意味をつけ加えることができます。

- ⑤ 「~することができる」(可能)の意味を助動

詞の can を使って表す。助動詞のあとにくる動詞(play)は原形にする。

なお、主語が3人称・単数でも、助動詞には -s, -es はつかない。

- ⑥ 「~なければならない」(義務)の意味を助動詞の must を使って表す。
- ⑦ 「~してはいけない」(禁止)の意味を must の否定文で表す。助動詞の否定文をつくるときは、助動詞のあとに not をおく。
- ⑧ 「~することができませんか」の意味を助動詞 can の疑問文で表す。助動詞の疑問文をつくるときは、助動詞を主語の前におく。
- ⑨ 「~しましょうか」は Shall I ~? で表す。助動詞の shall を使った会話表現。
- ⑩ 「~していただけますか」といっていい言い方になっていることに注目。can の過去形の could を使い、Could you ~? とする。will の過去形の would を使い、Would you ~? としてもよい。

## Step! 実力養成テスト ..... p.16-17

- 1 ① saw ② stopped ③ tried  
④ sitting ⑤ coming ⑥ asking

## 解説

語形変化の問題。変化のルールをしっかりおぼえましょう。過去形は不規則な変化をするものが多いので、そうした変化形も少しずつおぼえていきましょう。

- ① 過去の文。see (見る) は不規則に変化する動詞。see の過去形は saw。
- ② 過去の文。stop (とまる) のように、「アクセントのある短母音+子音字」でおわる動詞の過去形は、子音字を重ねて -ed をつける。stop ⇒ stopped
- ③ 過去の文。try (試みる) のように、「子音字+y」でおわる動詞の過去形は、y を i に変えて -ed をつける。try ⇒ tried

- ④ 過去進行形の文。sit (すわる) のように、「アクセントのある短母音+子音字」でおわる動詞の ing 形は、子音字を重ねて -ing をつける。sit ⇒ sitting
- ⑤ 近い未来を表す現在進行形の文。e でおわる動詞の ing 形は、e をとって -ing をつける。come ⇒ coming
- ⑥ 現在進行形と副詞の always を組み合わせて「動作の反復」を表す文。ask の ing 形は、ふつうに語尾に -ing をつける。

- 2 ① May ② Shall ③ Will ④ Will

## 解説

会話表現では助動詞をよく使います。決まった言い方になっているものは、そのままおぼえてしまいましょう。

- ① 「~してもいいですか」と相手の許可を得ようとするときは、May I ~? または Can I ~? で表す。
- ② 「~しましょうか」と相手に申し出るときは Shall I ~? で表す。
- ③ これも会話文だが、特に決まった言い方というわけではなく、ふつうの未来の疑問文。助動詞の will を使う。  
なお、この文の it は天候を表している。代名詞の it は、天候や時刻を表す文の主語として使われることがある。
- ④ 「~していただけますか」と相手に何かを頼むときは Will you ~? または Can you ~? で表す。

- 3 ① She did not[didn't] buy the bag.  
② He was not[wasn't] studying hard.  
③ Did she go to the museum?  
④ Can he drive a car?  
⑤ They will[are going to] play tennis tomorrow.

解説

否定文や疑問文をつくるときは、一般動詞の文か、be動詞の文か、あるいは助動詞を使った文かをまず確認しましょう。

- ① 一般動詞の過去の否定文は、動詞の前に **didn't** をおき、あとの動詞を原形にする。
- ② 進行形の文は、ふつうの **be** 動詞の文と同じようにして否定文をつくる。ここでは **was** のあとに **not** をおけば否定文になる。短縮形の **wasn't** にしてもよい。
- ③ 一般動詞の過去の疑問文は、文頭に **Did** をおく。そして、〈**Did** + 主語〉のあとの動詞を原形にする。
- ④ 助動詞の疑問文は、助動詞(ここでは **can**) を文頭にもってくればよい。
- ⑤ **tomorrow** に変えるということは、未来の文にすること。助動詞の **will** を動詞の前におき、動詞を原形にする。**will** の代わりに **are going to** を使ってもよい。

- ④ ① 今夜は雪がふるかもしれない。
- ② 彼はとてもお金持ちにちがいない。
- ③ (あなたは) タクシーを使ったほうがいいですよ。
- ④ (あなたは) 私の自転車を使ってもいいですよ。
- ⑤ (あなたは) 英語を一生けんめい勉強しなくてはいけない。

解説

助動詞にはしばしば複数の意味があります。1つの意味にとらわれず、文全体の中で意味を決めるようにしましょう。

- ① この **may** は「～してもよい」(許可)の意味ではなく、「～かもしれない」(推量)の意味で使われている。
- ② この **must** は「～にちがいない」(推量)の意味で使われている。
- ③ この **should** は「～したほうがいい」(助言)の意味で使われている。
- ④ この **can** は「～できる」(能力・可能)の意味

ではなく、「～してもよい」(許可)の意味で使われている。

- ⑤ この **must** は「～なくてはならない」(義務)の意味で使われている。

Jump! 実戦力テスト ..... p.18-19

- 1 ① ア ② エ ③ イ ④ エ ⑤ ウ ⑥ エ

解説

- ① 「彼女はその試合に勝ちましたか」：文頭に **Did** があるので、主語のあとにくる動詞は原形の **win** になる。
- ② 「彼女はパーティーを楽しんでいましたか」：文頭に **Was** があることから、現在進行形の疑問文になることがわかる。
- ③ 「(あなたは) 次の土曜日はいそがしいですか」：未来の疑問文。**busy** は形容詞なので **be** 動詞が必要。**Will you** のあとなので、原形の **be** にする。
- ④ 「これはとてもよい本です。あなたも読んだほうがいい」：最初の文の内容と合う助動詞を選ぶ。**should** (～したほうがいい) が適当。
- ⑤ 「このコンピュータを使ってもいいですか」—「どうぞ」：ここは許可を求める文と考えるのが自然。選択肢の中から許可を表す助動詞(ここでは **Can**) を選ぶ。
- ⑥ 「その本は返さないといけませんか」—「いいえ、それにはおよびません」：**Must I** ～? に対して否定の応答をする場合、**must not** (～してはいけない) ではなく、**don't have to** (～する必要はない) を使う。

- 2 ① She cannot play the piano well.
- ② He is coming back this weekend.
- ③ She must be very angry with me.
- ④ We are going to visit Okinawa next week.

解説

- ① 「彼女はピアノをじょうずにひくことができない」：**cannot** (= **can** + **not**) のあとの動詞は原形(ここでは **play**) にしなくてはならない。
- ② 「今週末に彼は帰ってくることになっている」：近い未来を表す文。**is** を使わなくてはならないので、現在進行形を使い、**is coming back** ～ で表す。また、**be going to** ～ を使って **is going to come back** ～ としてもよい。
- ③ 「彼女は私に対してとても怒っているにちがいない」：**must** は助動詞。助動詞のあとには動詞の原形がなくてはならないが、**angry** は形容詞。**angry** の前に **be** 動詞の原形の **be** が必要。
- ④ 「私たちは来週沖縄へ行きます」：ここでは **going** を使わなくてはならないので、**be going to** ～ を使って未来を表す。**going** のあとに **to** が必要。

- 3 ① She won't come to the party.
- ② Will you pass the salt, please?
- ③ We were staying in London at the time.
- ④ My mother is always losing something.
- ⑤ Shall we go out for lunch?
- ⑥ Would you sing a song for me?

解説

- ① 「来ないだろう」を〈助動詞 (**won't**) + 動詞 (**come**)〉で表す。残りの単語で **to the party** という句をつくる。
- ② 「～してくれませんか」を **Will you** ～? で表す。残りの単語で **pass the salt** という〈動詞+目的語〉のまとまりをつくる。
- ③ 「滞在していました」という(過去の)進行中の動作を **were staying** で表す。残りの単語で **in London** という句をつくる。
- ④ 「いつも～してばかりいる」を“進行形+

**always**” で表すのがポイント。**is always losing** … とする。

- ⑤ 「～しませんか」を **Shall we** ～? で表す。残りの単語で **go out for** ～ (～のために出かける) という句をつくる。
- ⑥ 「～していただけませんか」といういねいな依頼を、**Would you** ～? で表すのがポイント。それがわからない場合でも、**sing a song** というまとまりがわかれば、残った単語 (**would** と **you**) から、**Would you** ～? という表現がうかぶだろう。

- 4 ① She will be thirteen (years old) next week.
- ② My mother made this dress for me.
- ③ May[Can] I ask some questions?
- ④ You must not play baseball here.

解説

- ① 助動詞の **will** を使って未来の文をつくる。**She is thirteen** (彼女は13歳です) を未来にすると **She will be thirteen** となる。**be** 動詞の原形の **be** を忘れないように。なお、**She will become thirteen** としてもよいが、これはあとで習う文。
- ② 「つくってくれた」と過去になっているので、動詞の **make** は **made** にして使う。「私に」は **for me** で表す。なお、「母」はここでは **Mother** 1語でもよい。
- ③ 「～してもいいですか」を **May I** ～? で表す。**Can I** ～? でもよい。「いくつか質問をする」は **ask some questions**。複数形の **questions** にするのを忘れないように。なお、**May I ask you some questions?** としてもよいが、これはあとで習う文。
- ④ 「～してはいけません」という禁止の意味を **must not** で表すのがポイント。「ここで野球をする」は **play baseball here**。**baseball** には **a** や **the** はつけない。

# 3

## 名詞と代名詞

Hop! 基礎確認テスト .....p.22-23

- 1 ① brothers ② women ③ water  
 ④ glasses, milk ⑤ That ⑥ this  
 ⑦ My, sister's ⑧ their ⑨ mine  
 ⑩ myself

### 解説

名詞を使うときは、それが「数えられる名詞」か「数えられない名詞」か、数えられる名詞の場合は「単数」か「複数」か、で使い分けが必要になります。

- ① 「3人の兄弟」なので、複数形で表す。brother はふつうに -s をつける。
- ② 「女の人たち」とあるので、これも複数形にする。woman は不規則に変化する名詞で、複数形は women。
- ③ 「水」(water) は数えられない名詞なので、some (いくらかの) がついても複数形にはならない。
- ④ 「牛乳」(milk) は数えられない名詞だが、それを入れる「コップ」(glass) は数えられる名詞。「2杯」なので、two glasses と複数形にする。ssでおわる名詞は -es をつけて複数形にする。

指示代名詞は、指し示して使う代名詞なので、話者に近いか遠いかで使い分けます。

- ⑤ 「あれ」と自分から遠いところにあるものをさすときは that を使う。
- ⑥ 「こちら」と自分をさす言い方。電話ではこのようにときに this を使う。

名詞・代名詞の所有格はともよく使う語です。形をしっかりおぼえましょう。

- ⑦ 「私の妹の」には2つの所有格が使われている。「私の」は、人称代名詞 I の所有格 my で表す。「妹の」は sister (妹) に 's) をつけて所有格にする。
- ⑧ 日本語ではふつう「彼らは彼らの (=自分の) 手を洗った」とは言わないが、英語では所有格の their (彼らの) を hands (手) の前につける。
- ⑨ Whose dictionary (だれの辞典) とたずねているので、答えるときに dictionary という名詞をくり返す必要はない。このようなとき (my + 前に出てきた名詞) のはたらきをするのが所有代名詞の mine。
- ⑩ 動詞の目的語が主語と同じになる場合、主語自身をさす特別な代名詞を使う。「私自身」をさす代名詞は myself。このような代名詞を「再帰代名詞」という。

- 2 ① some, of ② any, of ③ All, of  
 ④ Both, of ⑤ one ⑥ another  
 ⑦ the, other ⑧ it, It ⑨ We  
 ⑩ each, other (または one, another)

### 解説

人称代名詞や指示代名詞は“特定の人やもの”をさしますが、“不特定の人やもの”をさす代名詞もあります。それを「不定代名詞」といい、たくさん種類があります。

- ① 不特定の「いくつか」や「何人か」を表すときは、不定代名詞の some を使う。「~のうちの」は of ~ で表す。
- ② こども不特定の「いくつか (何冊か)」だが、疑問文の場合は、ふつう some ではなく any を使う。
- ③ 「(~のうちの) 全部、全員、みんな」をさすときは all を使う。
- ④ 「(2人または2つのうちの) 両方」をさすときは both を使う。

不定代名詞の中には、“前に出てきた名詞の代わり”をするものもあります。

- ⑤ 「1台もっている」の「1台」は“不特定のカメラ”。つまり a camera のこと。このようなとき、a camera をくり返さないために使うのが one という不定代名詞。
- ⑥ 「別の(シャツ)を見せてください」の「別の」は“多数の中の不特定の別のシャツ”のこと。このようなときは、another あるいは another one で表す。
- ⑦ ここは“2台のうちのもう1台”ということなので、必然的に“特定の自転車”をさすことになる。このようなときは、the other あるいは the other one で表す。

このほかにも、代名詞にはさまざまな種類や用法があります。ここでは、そのうちのいくつかを見ておきましょう。

- ⑧ 代名詞の it は、時刻・天候・距離などを表す文の主語として使うことがある。
- ⑨ we には「(自分をふくむ) 一般の人びと」をさす用法がある。ここではその we を使って「私たちの地方」のことを表現している。
- ⑩ この空所には動詞 help の目的語となる代名詞を入れる必要がある。「おたがい」を意味する代名詞は each other。

Step! 実力養成テスト .....p.24-25

- 1 ① dresses ② children ③ teeth  
 ④ boxes ⑤ Sheep ⑥ cities

### 解説

名詞の複数形のつくり方と、不規則な変化をする名詞の複数形は、英語学習の基本として、しっかりとおぼえましょう。

- ① dress のように ssでおわる名詞は、語尾に -es をつけて複数形にする。
- ② child は不規則に変化する名詞で、複数形

は children となる。

- ③ tooth も不規則に変化する名詞で、複数形は teeth となる。
- ④ box のように xでおわる名詞は、語尾に -es をつけて複数形にする。
- ⑤ sheep は単数形と複数形が同じ形をしている名詞 (=単複同形)。
- ⑥ city のように「子音字 + y」でおわる名詞は、y を i に変えて -es をつける。

- 2 ① ×, × ② a, × ③ a, × ④ ×, an

### 解説

名詞を使いこなせるようになるためには、「数えられる名詞」と「数えられない名詞」の区別に慣れることがたいせつです。

- ① art (美術、芸術) も、poetry (詩) も数えられない名詞なので a や an は不要。poetry は「文学の1分野としての詩」のことで、「個々の作品としての詩」は poem という。poem は数えられる名詞。
- ② baseball (野球) は数えられない名詞だが、ここでは形容詞的に使われている。team (チーム) が数えられる名詞であるため、baseball の前に a が必要。New York は固有名詞 (=数えられない名詞) で、a は不要。
- ③ cup (カップ) は数えられる名詞だが、物質を表す coffee (コーヒー) はふつう数えられない名詞としてあつかう。
- ④ lunch (昼食) は、breakfast (朝食) などと同じで数えられない名詞。restaurant (レストラン) は数えられる名詞。前に Italian がついているので、a ではなく an をつける。

- 3 ① It ② another ③ That ④ other  
 ⑤ They ⑥ One, the other

解説

代名詞にはたくさん種類と用法があります。それぞれを的確に使い分けられるようにしておきましょう。

- ① 「こんどの週末は晴れるでしょう」：天候を表す文なので、it を主語にする。it にはこうした特別な用法がある。
- ② 「わあ、このクッキー、とてもおいしい！ もう1つください」：多数の中からの「(不特定の) もう1つ」は another で表す。
- ③ 「テニスをしませんか」— 「それはいい(考え)ですね」：相手が言ったことをすぐに受けて「それは」「そのことは」と言うときは that を使う。
- ④ 「彼らは親友で、おたがいを尊敬しています」：「おたがい」の意味を表す代名詞は each other。ここでは動詞 respect の目的語として使われている。
- ⑤ 「その列車では食べ物や飲み物売っている」：ある特定の場所(店、町、国など)の人びとを they で表すことがある。ここでは「列車の人びと」をさしている。
- ⑥ 「彼は車を2台もっている。1台は青で、もう1台は赤です」：2つのうちの「もう1つ」は the other で表す。

- 4 ① 1つも [まったく]  
 ② 2人とも [両方とも]  
 ③ あなたの (カップ)  
 ④ 自分で [あなた自身で]

解説

- ① 否定文で any が使われると、「1つも(まったく) ~ない」の意味になる。
- ② Both of ~ は「~の両方」の意味。そのまま訳すと、「彼女の親の両方が医者です」となる。
- ③ yours は <your + 前に出てきた名詞> の意味を表す。ここでは、your cup をさす。

- ④ 語尾が -self や -selves でおわる代名詞 (= 再帰代名詞) には、「自分で」「みづから」というように、主語を強調する使い方がる。

Jump! 実戦力テスト .....p.26-27

- 1 ① ウ ② エ ③ ウ ④ イ ⑤ エ ⑥ ア

解説

- ① 「私はけさパンを1枚食べた」：パンは数えられない名詞で、「パン1枚 (=1切れ)」は a slice[piece] of bread で表す。
- ② 「あなたはこの部屋の中のだれかを知っていますか」：疑問文で「だれか」というときはふつう anyone を使う。
- ③ 「私のコンピュータは古い。新しいのを買うつもりだ」：「新しいの」とは「新しいコンピュータ」のこと。同じ名詞(ここでは computer) のくり返しをさけるときは不定代名詞の one を使う。
- ④ 「このうで時計は好みじゃないです。別の(うで時計)を見せてください」：“不特定の別のもの”をさすときは、another または another one を使う。
- ⑤ 「私たち1人1人がスマホもっている」：動詞が has になっていることに注目する。選択肢の中で、後ろに of us がきて単数あつかいになるのは Each だけ。
- ⑥ 「ここから空港まで10キロメートルです」：代名詞の it は、時刻・天候・明暗のほかに、距離を表す文の主語としても使う。

- 2 ① Is this your pencil? — Yes, it's mine. ② I introduced myself to the students. ③ He is famous here. Everyone knows his name. ④ I lost my umbrella. I have to buy one.

解説

- ① 「これはあなたのえんぴつですか」— 「はい、私の(えんぴつ)です」：所有格の代名詞 my は be動詞の補語として使うことはできない。ここは所有代名詞の mine (= my pencil) を使う。
- ② 「私は生徒たちに自己紹介をした」：自己紹介なので、「私は私を紹介した」ということになるが、目的語が主語自身のときは me ではなく -self の形の代名詞 (= 再帰代名詞) を使う。
- ③ 「彼はここでは有名です。だれもが彼の名前を知っています」：everyone は「だれもがみな」という意味を表すが、“単数”としてあつかうので注意しよう。
- ④ 「私は傘をなくしました。(なので)傘を買わなくてはなりません」：it とすると「なくした傘 (= 特定の傘)」をさしてしまう。ここは単に「(不特定の1本の)傘」をさしているの、不定代名詞の one を使う。

- 3 ① All of them have their own dreams. ② These are my brother's books, not mine. ③ It is six in the morning in Hawaii. ④ I had four cups of coffee today. ⑤ I'll take that blue one. ⑥ John and I know each other well.

解説

- ① 「彼ら全員」を all of them で表す。それを主語にして、動詞を have にすれば文の形ができてあがる。
- ② 「私の兄の本」を my brother's books というように、代名詞と名詞の所有格を使って表すのがポイント。なお、これと同じ意味を These books are my brother's で表すこともできる(これも正解)。

- ③ 「6時です」は、時刻を表す it を使い、It is six とする。in the morning (朝) は決まった言い方。
- ④ 「コーヒー1杯」を a cup of coffee と表すのがわかっているならば、それを応用すればいいだけ。「コーヒーを4杯」を four cups of coffee とする。
- ⑤ 「あの青いの」= 「あの青いシャツ」を不定代名詞の one (名詞の代わりをする) を使って、that blue one とする。one はここでは shirt をさしている。「買う」は take で表す。
- ⑥ 「おたがいを知っている」は、each other (おたがい) を目的語にして know each other とする。副詞の well (よく) はそのあとにおく。

- 4 ① We have five classes today. ② You can see the ocean from this room. ③ Both of us went to the concert. ④ I don't like any of those pictures.

解説

- ① 「5つ(の)授業」は five classes とする。class (授業) は -es をつけて複数形にする。we があたえられているので、We have で文をはじめる。
- ② この文では、特に「だれか」とはないので、「相手をふくむ一般的な人」を表す you で文をはじめる。「この部屋から」は from this room とする。
- ③ us があたえられているので、「私たちは2人とも」を Both of us とする。あとはふつうに went to ~ とすればよい。
- ④ 「どれも好きではない」は don't like any で表す。<not + any> で「どれも [1つも] …ない」の意味。「それらの絵のどれも」は any of those pictures とする。picture を複数形にするのを忘れないように。

## Hop! 基礎確認テスト .....p.30-31

- 1 ① a, the ② the ③ a ④ The ⑤ the  
⑥ the ⑦ a ⑧ × ⑨ many ⑩ lot, of

## 解説

冠詞を使ううえで最も重要なことは、名詞(=人や事物)が“特定されているかどうか”です。特定されている場合は **the** を使い、不特定で単数の場合は **a** を使います。

- ① 買う時点では、指輪はまだ特定されていないので **a ring**。買ったあとは、買ったことで特定されるため、**the ring** となる。
- ② 「その少年たち」と特定されているので **the** をつける。
- ③ 冠詞の **a** は、後ろに単位となる語がきて、「1つの～につき」という意味を表すことがある。**a day** で「1日に(つき)」の意味になる。
- ④ 「太陽」や「月」は1つしかないため、はじめから特定されてしまっている。そのため、ふつうは **the sun** や **the moon** というように、**the** をつけて使う。
- ⑤ 会話の中で「お塩をとって」と言うときは、どの塩をさしているかがおたがいにわかっている。つまり、特定の塩ということになり、**the** をつける。
- ⑥ 何かの楽器を演奏する (**play**) というときは、ふつう楽器を表す名詞に **the** をつける。ここでは **the piano** とする。
- ⑦ **for a long time** で「長いあいだ」という意味の熟語表現。このままおぼえよう。
- ⑧ スポーツを表す名詞には、ふつう **a** も **the** もつかない。

「数量を表す形容詞」を名詞に対して適切に使

うためには、まず、その名詞が“数えられる名詞”か“数えられない名詞”かを知る必要があります。

- ⑨ 「本 (**book**)」は数えられる名詞。数が多いことを表す **many** を使う。
- ⑩ 「水 (**water**)」は数えられない名詞。**a** ではじまっていることから、数・量どちらが多いことも表せる **a lot of** を使う。

- 2 ① few ② little ③ little ④ some  
⑤ any ⑥ often ⑦ very[so], much  
⑧ Only ⑨ too ⑩ either

## 解説

「少し」の場合、「少しはある」という肯定的な意味で使うときと、「少ししかない、ほとんどない」という否定的な意味で使うときとで、使い分けが必要になります。

- ① 「質問 (**question**)」は数えられる名詞。「少し質問をしていいですか」という場合の「少し」には否定的な意味合いはないので、**a few questions**にする。
- ② 「水 (**water**)」は数えられない名詞。「少し水を飲んだ」の「少し」にも否定的な意味合いはないので、**a little water**にする。
- ③ 「情報 (**information**)」は数えられない名詞。「情報がほとんどない(=少ししかない)」は否定的な表現なので、**a** をつけずに **little information** とする。

「多い・少ない」を問題にせず、不特定の数や量があることを表すのが **some** と **any** です。数と量のどちらにも使えます。

- ④ 「いくつかの質問」というように、不特定の数(複数)を表しているため、**questions** の前に **some** をつける。
- ⑤ 相手に兄弟姉妹がいるかどうかをたずねるときは、複数いる場合も想定しなくてはならない。そのため、**brothers or sisters** というように複数形にして、その前に、不特定の数

(複数または単数)を表す **any** をつける。

副詞についての基本的なことは第1章で習いましたが、そのほかにも副詞にはさまざまな種類や用法があります。それらについては、個別におぼえていくようにしましょう。

- ⑥ 「しばしば (**often**)」のような“頻度”を表す副詞は、ふつう一般動詞の前、**be**動詞のあとにおく。**visited** は一般動詞。
- ⑦ 形容詞や副詞を「とても」と強めるときは **very** を使うが、動詞を「とても」と強めるときは **very much** や **so much** を使う。
- ⑧ 文の主語(ここでは **Tom**)を「～だけが」と強調するときは、副詞の **only** を主語の前におく。
- ⑨ 「～も(また)…」というときは副詞の **too** を使う。ただし、次に見る **either** との使い分けに注意する必要がある。
- ⑩ 「～も(また)…ない」というように、否定文で「～も(また)…」というときは、**too** ではなく **either** を使う。

## Step! 実力養成テスト .....p.32-33

- 1 ① a ② The, the ③ The, a  
④ a ⑤ the

## 解説

特定されている名詞には **the** がつき、されていない名詞には **a** (または **an**) がつきます。特定のされ方にも注目しましょう。

- ① この文の「自転車 (**bike**)」はどんな自転車でもかまわないので、不特定。
- ② 「地球 (**earth**)」や「太陽 (**sun**)」は1つしかないものなので、必然的に特定されてしまう。
- ③ ここでは、特定のバンド(=そのバンド)についての話をしている。また、「週に」の「～に(つき)」の意味は、冠詞の **a** で表す。

- ④ **a cup of coffee** で「(カップ)1杯のコーヒー」という決まった言い方。特定のコーヒークップをさしているわけではない。
- ⑤ この会話では、話者は特定のドアについて「閉めてくれませんか」と言っているはずで、相手もそれはわかって返事をしていると考えられる。

- 2 ① They played the game together.  
② My father is always busy.  
③ These shoes are too big for me.  
④ I like dogs, but I like cats(,) too.  
⑤ He often comes to our house.

## 解説

副詞は文の主要素ではないため、どこにおいたらいいのか迷うことがあります。ふつうは文の後ろにおけばいいのですが、そうではないものには注意が必要です。

- ① 副詞の **together** (いっしょに) は、通常どおり文の主要素のあとにおく。ここでは目的語の **the game** のあとにおく。
- ② **always** (いつも) は頻度を表す副詞の1つ。**be**動詞の文では、頻度を表す副詞は **be**動詞のあとにおく。
- ③ 副詞の **too** (あまりにも～、～すぎる) は修飾する形容詞や副詞の前におく。ここでは形容詞 **big** の前におく。
- ④ 副詞の **too** (～もまた) は、ふつう文末におく。③と同じ **too** だが意味がちがう。なお、ここでは「私も～が好きだ」ではなく、「ネコも好きだ」という意味。
- ⑤ **often** (しばしば、よく) は頻度を表す副詞の1つ。一般動詞の文では、頻度を表す副詞は動詞の前におく。

- 3 ① a lot of ② much ③ some ④ any  
⑤ a few ⑥ little ⑦ either

解説

数量を表す形容詞については、しっかりと使い分けられるようにしておきましょう。

- ① 「多くの～」は a lot of ～ で表すことができる。a lot of ～ や lots of ～ は数にも量にも使える。
- ② 「興味 (interest)」は数えられない名詞なので much を使う。<not + much> で「多くはない」⇒「あまりない」の意味。
- ③ 「オレンジジュース (orange juice)」の量は不特定で、また、疑問文でも否定文でもないので、any ではなく some を前につける。
- ④ 否定文で「～が (1人も) いない」というときは、<not + any +> の形にする。この場合は some は使わない。
- ⑤ 「少しもっている」というのは肯定的な言い方なので a few を使う。
- ⑥ 「ほとんどもっていなかった」は否定的な言い方なので、a のつかない little を使う。なお、money は数えられない名詞。
- ⑦ 副詞の使い分けの問題。「私も (また) 知らなかった」は否定文なので、「～も (また)」は too ではなく either で表す。

- 4 ① runs, fast ② good, tennis, player ③ answered, quickly

解説

書きかえ問題の一種。このような問題をやることで、英文の理解を深め、表現の引き出しを多くすることができます。

- ① 上の文の a fast runner は「速く走る人」という意味。これを「(人が) 速く走る」と言いかえる。fast は上の文では形容詞だが、下の文では副詞になる。2つの文の意味は「私の兄は走るのが速い」
- ② 前の問題とはギャクの言い換え。「(人が) じょうずにテニスをする」を「じょうずにテニスをする人」(a good tennis player) と言い

かえる。副詞の well が形容詞の good に変わる。2つの文の意味は「彼女はテニスがじょうずです」

- ③ gave a quick answer は「すばやい返答をした」という意味。これを、answer を動詞にして言いかえる。それに合わせて、形容詞の quick は副詞の quickly に変える。2つの文の意味は「その生徒はすばやく答えた」

Jump! 実戦力テスト .....p.34-35

- 1 ① イ ② ア ③ ウ ④ エ ⑤ ア ⑥ ウ

解説

- ① 「彼女は食べ物をもっとく食べなかった」: didn't eat any food で「少しの食べ物も食べなかった」という意味になる。at all は否定を強めている。
- ② 「彼はアイスクリームをたくさん食べすぎて気分がわるくなった」: ice cream は数えられない名詞。too much ice cream (あまりにも多くのアイスクリーム) とする。
- ③ 「彼女はふつう 10 時に寝る」: go to bed は熟語で「就寝する、寝る」の意味。この表現では bed に a や the はつけない。
- ④ 「私はきのうパーティーに行きませんでした」— 「私も行きませんでした」: 否定文で「～も (また)」と言うときは、too ではなく either を使う。
- ⑤ 「私たちは昼食のあとにケーキ (1つ) と (いくらかの) コーヒーをいただきました」: coffee は数えられない名詞。不特定の量を表す some をつける。なお、切り分けたケーキ1つは、a cake ではなく a piece of cake と表す。
- ⑥ 「その博物館はとてもおもしろいが、そこを訪れる人は少ししかいない」: 前の部分と but (しかし) でつながれている点に注目する。否定的な意味を表す few を入れて「少しの人

しか訪れない」という意味にする。

- 2 ① She saved a little money every month. ② We traveled around Hokkaido by car. ③ This room is large enough for me. ④ All of us enjoyed the school festival very[so] much. (または All of us very[so] much enjoyed the school festival.)

解説

- ① 「彼女は毎月少し貯金をした」: money は数えられない名詞なので、a few ではなく a little を使う。
- ② 「私たちは車で北海道を旅してまわった」: “移動手段”を表すときの by のあとの名詞は無冠詞にする。
- ③ 「この部屋は私には十分な広さがある」: 副詞の enough (十分に) は形容詞の後ろにおいて修飾する。large enough で「十分に大きい」という意味。
- ④ 「私たちはみんな学園祭をとて楽しんで」: very は形容詞や副詞を強める副詞。動詞を「とて」と強めるときは、very[so] much を文末 (あるいは動詞の前) におく。

- 3 ① She is sometimes late for school. ② I took a lot of pictures during the trip. ③ Do you have any plans for next Sunday? ④ She is a very good tennis player. ⑤ He drinks four or five cups of coffee a day. ⑥ Even a small child can understand this.

解説

- ① 「～に遅刻する」を is late for ～ で表す。sometimes (ときどき) は頻度を表す副詞なので、be動詞 (is) のあとにおく。
- ② 「たくさんの～」を a lot of ～ で表す。動詞

の take には「(写真を) 撮る」という意味がある。

- ③ 「何か予定があるか」という疑問文なので、plans の前に any をつけ、Do you have any plans ...? とする。
- ④ 「テニスがとてもじょうずだ」を a very good tennis player (とてもじょうずにテニスをする人) という言い方で表す。
- ⑤ a をどこに使うかがポイント。「4、5杯のコーヒー」は four or five cups of coffee とする。ここでは a は使わない。「1日に (つき)」を a day で表す。
- ⑥ 「小さな子どもでも」の「でも」は副詞の even で表す。この even は a small child (小さな子ども) の前におく。

- 4 ① May I open the windows?

- ② He goes to school by train.
- ③ We had a good time at the party.
- ④ He often plays the guitar.

解説

- ① 「～してもいいですか」は May[Can] I ～? で表す。また、「窓を開けても…」と言うときの「窓」は、特定の窓をさしているので、windows には the をつける。
- ② 「電車で」は“移動手段”を表す by を使い、by train とする。train は無冠詞。「(授業を受けに) 学校に通う」というときは go to school という。この school も無冠詞で使う。
- ③ あたえられた語の中に good があることから、「楽しくすごす」を have a good time で表す。冠詞の a を忘れないように。
- ④ 「ギターをひく」は plays the guitar. この言い方のときは、楽器名の前に the をつけるのがふつう。また、「よくギターをひく」とあるので、頻度を表す副詞の often (しばしば) を plays の前におく。

## Hop! 基礎確認テスト ..... p.38-39

- 1 ① What, do ② Who, is ③ Which, book, did ④ Whose, umbrella, is ⑤ When, do ⑥ Why, is ⑦ How, did ⑧ How, old ⑨ How, many, brothers ⑩ Who, lives, does

## 解説

疑問文をつくるときに重要なのは「語順」です。疑問詞を使った疑問文でも、疑問詞のあとの語順がだいじです。

- ①「何」を意味する疑問詞は what。そのあとに、〈do + 主語 + 動詞の原形〉という“一般動詞の疑問文の語順”がつづく。  
②「だれ」を意味する疑問詞は who。そのあとに、〈be動詞 + 主語〉という“be動詞の疑問文の語順”がつづく。

このように、疑問詞を使った疑問文でも、一般動詞と be動詞の区別は重要です。

- ③「どの～」を意味する疑問詞は which。which book (どの本) のあとに“一般動詞の疑問文の語順”がつづく。  
④「だれの～」を意味する疑問詞は whose。whose umbrella (だれの傘) のあとに“be動詞の疑問文の語順”がつづく。  
⑤「いつ」を意味する疑問詞は when。そのあとに“一般動詞の疑問文の語順”がつづく。  
⑥「なぜ」を意味する疑問詞は why。そのあとに“be動詞の疑問文の語順”がつづく。  
⑦「どうやって」を意味する疑問詞は how。そのあとに“一般動詞の疑問文の語順”がつづく。  
⑧「何歳」を意味する How old のあとに“be

動詞の疑問文の語順”がつづく。

- ⑨「何人の兄弟」を意味する how many brothers のあとに“一般動詞の疑問文の語順”がつづく。

ここまでの疑問文では、疑問詞が目的語や補語や副詞のはたらきをしていましたが、次の疑問文では、疑問詞が“主語”です。

- ⑩「だれが住んでいますか」という疑問文では、疑問詞の who (だれ) が主語になる。このような疑問文の場合は、ふつうの文と同じ語順(主語 + 動詞...)になる。

なお、主語の who はふつう単数あつかいにするので、あとの動詞は lives にする。

- 2 ① or ② Which, or ③ never, drinks ④ no, money ⑤ is, on ⑥ There, are ⑦ Please, open ⑧ Let's, go ⑨ What, a, is ⑩ How, wonderful[nice], is

## 解説

これまで見てきた疑問文や否定文とは、少し形がちがうものもあります。

- ①「Aか、それともBか」は〈A or B〉で表す。この疑問文では補語が〈A or B〉の形になる。  
②「どちらがほしいですか」という疑問文。which で疑問文をはじめて、最後に、選択肢を〈A or B〉の形で示す。  
③「けっして～しない」という否定の意味を、副詞の never を使い、〈never + 動詞〉の形で表す。never は doesn't などとちがひ、あとにくる動詞は原形にならない。  
④ I have で文がはじまっているので、no money を have の目的語にして否定の意味を表すようにする。

ここからは、疑問文・否定文以外で、これまで学習してきた文とは意味や形がちがうものについて見ておきましょう。

- ⑤ be動詞には「～は…である」というように、主語と補語をむすびつけるはたらきがあるが、それ以外に「～がある、いる」という存在の意味を表すこともある。この文では be動詞を存在の意味で使う。

- ⑥「(不特定の人やものが) いる、ある」というときには、There is[are] ～ という特別な形の文を使う。

この形の文では、主語が be動詞のあとにくるので、be動詞はその主語に合わせて使い分ける。この文の主語は twenty girls (複数) なので、be動詞は are にする。

- ⑦「～しないで」「～して」と相手に命令や依頼をするときは、主語のない、動詞(原形)からはじまる文(=命令文)を使う。

これに please をつけるとていねいな言い方(～してください)になる。

- ⑧「～しましょう」と相手にさそいかけるときは、しばしば〈Let's + 動詞の原形...〉の文を使う。これも主語のない文。

- ⑨ a kind girl (親切な女の子) のような、〈(a +) 形容詞 + 名詞〉の句に感嘆の気持ちをこめるときは、What (何て) を前において感嘆文をつくる。

名詞が数えられる名詞で単数のときは、形容詞の前に a や an をつける。

- ⑩後ろに名詞がこない〈形容詞〉や〈副詞〉に感嘆の気持ちをこめるときは、How (何て) を前において感嘆文をつくる。なお、感嘆文の場合、疑問文とはちがって後ろは〈主語 + 動詞〉の形になる。

## Step! 実力養成テスト ..... p.40-41

- 1 ① Where ② How ③ What ④ Which ⑤ Who ⑥ Why

## 解説

この問題では、応答文を読んで何を答えている

かに注目すれば、何をたずねる文にすればよいかわかります。

- ① 応答文では、行き先 (the post office) を答えている。「どこへ行くのですか」→「郵便局へ行くところです」

- ② 応答文では、移動手段 (By bus) を答えている。「どうやってここへ来たのですか」→「バスで (来ました)」

- ③ 応答文では、食べたもの (pizza) を答えている。「昼食に何を食べましたか」→「ピザを食べました」

- ④ この問題では、質問文の末尾の〈A or B〉(Aか、それともB)から疑問文の形がわかる。「どちらがほしいですか、犬ですか、それともネコですか」→「犬です」

- ⑤ 応答文では、つくった人 (My mother) を答えている。「だれがこのケーキをつくったのですか」→「母がつくりました」

- ⑥ 応答文では、理由 (Because ～) を答えている。「なぜこんなにおくれたのですか」→「乗る電車をまちがえたからです」

- 2 ① 大阪にいました

- ② 静かにしてください

- ③ いつも幸せとはかぎらない

- ④ 何も言わなかった

## 解説

- ① be動詞の過去形 were が「いた」という意味 (=存在の意味) を表している。

- ② be動詞の命令文。原形の be が使われている。be quiet で「静かにしてください」という意味。文頭に Please がついて、ていねいな言い方になっている。

- ③ not always で、「いつも [かならずしも] ～というわけではない」という“部分否定”の言い方になる。

- ④ 文の形は否定文ではないが、動詞 said (言った) の目的語が nothing であるため、否定

の意味を表す文になっている。

- 3** ① How old is that elephant?  
 ② How much is this bag?  
 ③ Whose car is that?  
 ④ How high is the building?  
 ⑤ How often does she go to the gym?

**解説**

疑問詞を使いこなせるようになると、さまざまなことを質問できるようになり、会話力や表現力の向上につながります。

- ①「あのゾウは3歳です」：3歳は年齢。年齢をたずねるときは **How old** ではじめる。  
 ②「このバッグは5千円です」：5千円は値段。値段をたずねるときは **How much** ではじめる。  
 ③「あれは私のおじの車です」：下線部分はその車の車かを言っている。「だれの～」をたずねるときは **Whose** ～ ではじめる。  
 ④「このビルは高さがおよそ200メートルです」：下線部分はビルの高さ。高さをたずねるときは **How high** ではじめる。  
 ⑤「彼女は1週間に2回(スポーツ)ジムに通っている」：1週間に2回というのは頻度。頻度をたずねるときは **How often** ではじめる。ほかに、**How many times (a week)** ではじめてもよい。

- 4** ① Let's, go ② Don't, play  
 ③ has, no ④ There, are  
 ⑤ What, a, cute, smile

**解説**

- ①「お昼を食べに出かけませんか〔出かけましょう〕」：**Shall we ~?** (～しませんか) を **Let's ~** (～しましょう) で言いかえる。  
 ②「ここで野球をしてはいけない」：禁止を表す **must not ~** (～してはいけない) を否定の

命令文 (**Don't ~**) で言いかえる。

- ③「彼は芸術にまったく興味をもっていない」：**doesn't have any ~** (～をまったくもっていない) を **has no ~** で言いかえる。**not + any = no** とおぼえておこう。  
 ④「私たちの町には図書館が2つある」：**We have ~ in our town** (私たちの町には～がある) を **There is[are] ~** (～がある) の文を使って言いかえる。主語が複数 (**two libraries**) なので **There are ~** にする。  
 ⑤「彼女のほほえみは何てかわいいんだろう」：この感嘆文では主語が **her smile**。これを、**she** を主語にして **What** の感嘆文で言いかえる。「彼女は何てかわいい笑顔をもっているんだろう」という意味にする。

**Jump! 実戦力テスト** .....p.42-43

- 1** ①ウ ②イ ③ウ ④ウ ⑤エ ⑥ア

**解説**

- ①「きょうは何月何日ですか」—「12月12日です」：相手が日付を答えているので、日付をたずねる表現にする。  
 ②「あなたはどれだけのお金を必要としていますか」：**money** (お金) は数えられない名詞なので、量をたずねる表現にする。  
 ③「彼女は先生ですか、それとも生徒ですか」—「先生です」：相手が **Yes** や **No** を使わずに答えているので、選択式 (**A or B**) のたずね方にする。  
 ④「どの帽子がほしいですか」—「あの帽子がほしいです」：相手に一定の範囲の中から選ぶてもらうときには **which** (どの～) を使う。  
 ⑤「あなたはなぜそんなに早起きするのですか」—「毎朝ジョギングしているからです」：**Why** (なぜ～) の疑問文には、ふつう、**Because** (なぜなら～) で答える。  
 ⑥「テレビをたくさん見すぎるな (=見すぎて

はいけない)」：**Don't** を入れて否定の命令文にする。

- 2** ① **What are you going to do next?**  
 ② **He never gives up his dream.**  
 ③ **There are a lot of people in this park.**  
 ④ **What an exciting movie it was!**

**解説**

- ①「あなたは次に何をしようとしているのですか」：**What** のあとは「疑問文の語順」(ここでは **are you ~**) にする必要がある。  
 ②「彼は決して自分の夢をあきらめない」：**never** は副詞。主語が3人称・単数で現在の文なので、**never** のあとの動詞 **give** は **gives** にする必要がある。  
 ③「この公園にはたくさんの方がいます」：**There is[are] ~** の文では、**be** 動詞のあとに主語がくる。**be** 動詞はその主語(ここでは **a lot of people**) に合わせる。  
 ④「それは何てわくわくする映画だったのでしょ」：**movie** (映画) は数えられる名詞なので、「(1本の) わくわくする映画」は **an exciting movie**。感嘆文にするときは、その前に **What** をおく形にする。

- 3** ① **When did you come to Japan?**  
 ② **How far is it from here to the station?** ③ **How many books do you read in a month?** ④ **How nice your parents are!** ⑤ **Let's go for a walk after lunch.** ⑥ **We don't always agree with each other.**

**解説**

- ①「いつ」を表す **when** で文をはじめる。そのあとは、一般動詞の疑問文の語順 (**did you come ~**) にする。

- ②「(距離が) どのくらい」を表す **how far** で文をはじめる。そのあとは、**be** 動詞の疑問文の語順 (**is it ~**) にする。**it** は距離を表す文の主語として使われる。  
 ③「何冊(の) 本」を表す **how many books** で文をはじめる。そのあとは、一般動詞の疑問文の語順 (**do you read ~**) にする。  
 ④「何てやさしい」を **How nice** で表し、そのあとに〈主語+動詞〉をつづけて、感嘆文の形にする。  
 ⑤「～しましょう」は **Let's ~** で表す。「散歩に出かける」は **go for a walk**。  
 ⑥「いつも～とはかぎりません」(=部分否定) を 〈**not + always**〉 で表すのがポイント。**always** は動詞 **agree** の前におく。

- 4** ① **What day (of the week) is it today?**  
 ② **Who painted this beautiful picture?**  
 ③ **There is no milk in the fridge.**  
 [There isn't any milk in the fridge.]  
 ④ **No one[Nobody] lives in that house.**

**解説**

- ①曜日をたずねるときは、**What day** ではじめ、**is it today?** とつづける。**today** はなくてもよい。なお、**it** を使わずに **What day is today?** という言い方もある。  
 ②「～を描いたのはだれですか」とは「だれが～を描いたのですか」ということ。疑問詞の **who** を主語にして、**Who painted ~** とすればよい。  
 ③ **There is ~** の文を使う。「牛乳はまったくない」は **no milk** か、**not + any milk** か、どちらかを使う。  
 ④主語を「だれも…ない」の意味を表す **no one** あるいは **nobody** にする。**no one** や **nobody** は単数あつかいなので、動詞の **live** (住む) は **lives** にする。

## Hop! 基礎確認テスト ..... p.46-47

- 1 ① was ② became ③ looked  
④ lives ⑤ teaches ⑥ gave, her  
⑦ sent, him ⑧ sent, to, him  
⑨ cooked[made], me  
⑩ cooked[made], for, me

## 解説

文型は、文を4つの主要素で表します。主語(S)、動詞(V)、目的語(O)、補語(C)の4つです。文型の学習では、まず、目的語とは何か、補語とは何かを理解することが大切です。

- ① この文では、主語の She (彼女) と a singer (歌手) とが、イコールの関係でむすばれている。このような関係でむすばれる語句を「補語」という。そして、むすぶ動詞を「be 動詞」という。ここには be 動詞の過去形が入る。
- ② be 動詞は、「S は C である」というように、主語と補語をピッタリとむすびつけるが、「S は C になる」というように、そのむすびつきに“動作”がともなうこともある。その場合は一般動詞が使われる。ここでは一般動詞の become (～になる) を使う。
- ③ 「S は C に見える」というときは、一般動詞の look を使う。
- ④ 英語の文の中には、目的語も補語もなく、主要素が主語(S)と動詞(V)だけという文もある。live (住む) は、そのような文をつくる動詞。この文の in Osaka は場所を表す副詞句。
- ⑤ この文では English (英語) が「教える」という動作の“対象”になっている。このような役割をする語句を「目的語」という。あとに目的語がきて「～を教える」という意味を表

す動詞は teach。

動詞の中には、目的語(O)が2つある文をつくるものがあります。文型は〈主語+動詞+間接目的語+直接目的語〉となります。

- ⑥ 何かを「あげる(give)」という動作は、「あげるもの」だけでなく、「あげる相手」もいないと成立しない。あげる「もの」を表すのが直接目的語(～を)で、あげる「相手」を表すのが間接目的語(～に)。「人にものをあげる」は〈give 人+もの〉という形で表すので、「彼女にバッグをあげた」は、gave her a bag となる。
- ⑦ 動作は「あげる(give)」から「送る(send)」に変わるが、考え方は同じ。「彼に誕生日プレゼントを送った」は sent him a birthday present となる。
- ⑧ 「あげる相手」や「送る相手」を表す間接目的語(～に)は、副詞句の to ～ で表すこともできる。
- ⑨ 食事を「つくる(cook)」という動作は、「つくってあげる相手」がいなくても成立する。だが、cook も give や send と同じように〈cook 人+食事〉で「人に食事をつくってあげる」という意味を表すことができる。
- ⑩ 「つくってあげる相手」を副詞句で表すときは、to ～ ではなく、for ～ の形で表す。make (つくる) や buy (買う) も同じ。

- 2 ① made, him ② calls, her  
③ made, him ④ left[kept], open  
⑤ up ⑥ off ⑦ for ⑧ good, at  
⑨ proud, of ⑩ able, to

## 解説

動詞の中には、目的語(O)に補語(C)がつく文をつくるものもあります。文型は〈主語+動詞+目的語+補語〉となります。この場合の補語は、目的語を説明するはたらきをします。

- ① 「A を B にする」という意味は、make A B という形で表すことができる。A は目的語で、B は補語。この文では A = him で、B = our leader。
- ② 「A を B と呼ぶ」という意味は、call A B という形で表すことができる。この文では A = her で、B = Cathy。
- ③ 「A を B にする」(make A B) の文では、B が形容詞になることもある。この文では、B が angry (怒った)。
- ④ 「A を B のままにしておく」は、leave A B という形で表す。keep A B でもほぼ同じ意味を表すことができる。(keep の場合は、積極的にその状態を保つ感じがある。)

英語を使うとき、「文型」だけでなく、「句」という観点が重要になることもあります。ここでは、文型にもかわりのある、動詞にかんする句を見ておきます。

- ⑤ 「起きる」という意味を、get up という〈自動詞+副詞〉の句で表す。
- ⑥ 「ぬぐ」という意味を、take off という〈他動詞+副詞〉の句で表す。ふつう、目的語は動詞のすぐあとにくるが、take off という句が1つの他動詞のようなはたらきをするため、目的語の your shoes が off のあとにきている。ただし、take your shoes off という言い方もする。
- ⑦ 「～を待つ」という意味を、wait for ～ という〈自動詞+前置詞〉の句で表す。前置詞のあとに目的語がくるため、句としては他動詞のようなはたらきをする。
- ⑧ 「～が得意だ」という意味を be good at ～ という〈be 動詞+形容詞+前置詞〉の句で表す。このような句も他動詞に似たはたらきをする。
- ⑨ 「～を誇りに思う」という意味を、be proud of ～ という〈be 動詞+形容詞+前置詞〉の句で表す。

- ⑩ 「～することができる」という意味を be able to という句で表す。to のあとには動詞の原形がくる。この句の場合は、助動詞の can に似たはたらきをする。

## Step! 実力養成テスト ..... p.48-49

- 1 ① happily ② sad ③ in Hawaii  
④ London ⑤ a pianist ⑥ the problem

## 解説

文の要素のうち、目的語と補語の区別はもちろん重要ですが、副詞と補語、副詞と目的語の区別も重要です。動詞との関係でしっかり使い分けられるようにしましょう。

- ① smile (ほほえむ) は自動詞。「うれしそう」は副詞の happily で表す。happy は形容詞で「うれしい、幸福な」の意味。
- ② 「～に見える」の意味で使う look は後ろに補語がくるので、「悲しそう」は、副詞ではなく補語となる形容詞(sad)で表す。
- ③ stay (滞在する) は他動詞ではなく自動詞なので、「ハワイに」は、目的語ではなく副詞句(in Hawaii)で表す。
- ④ visit (訪れる) は他動詞なので、「ロンドンを」は目的語として表す。
- ⑤ become (～になる) は補語をとる自動詞なので、「ピアニストに」は、副詞句ではなく補語(a pianist)として表す。
- ⑥ discuss (話し合う) は他動詞なので、「その問題について」は目的語として表す。まちがえやすい動詞の1つ。

- 2 ① 私に彼の新しいくつを ② そのネコをモモと ③ 彼に誕生日のケーキをつくってあげました [つくりました]  
④ 彼をととても幸せにしました [とてもうれしい気持ちにしました]

解説

動詞のあとに(間接目的語+直接目的語) や(目的語+補語) がかかる文では、そうした語句の関係をしっかりおさえないと、文の正しい理解ができません。

- 1 meは間接目的語(～に)で、his new shoesは直接目的語(～を)。show A Bで「AにBを見せる」の意味。
- 2 the catは目的語(～を)で、Momoは(目的語に対する)補語。name A Bで「AをBと名づける」の意味。
- 3 himは間接目的語で、a birthday cakeは直接目的語。make A Bで「AにBをつくってあげる」の意味。
- 4 himは目的語で、very happyは補語。このmake A Bは、3とはちがい、「AをBにする」の意味。ここではBが形容詞になっている。この文は「彼女のこぼれ話を聞いて彼はとてもうれしくなった」などと訳すこともできる。

- 3 1 got 2 found 3 sent 4 called  
5 kept

解説

- 1 「彼女は眠くなり床についた」：getはあとに補語がきて「～になる」という意味を表す。ここはgot sleepyとする。
- 2 「私はその映画をとてもおもしろいと感じた」：the movieとfunnyが目的語と補語の関係になると考えて動詞を探す。found the movie very funnyとする。
- 3 「私は彼に年賀状を送った」：himとa New Year's card(年賀状)が2つの目的語になると考えて動詞を探す。sent him a New Year's cardとする。
- 4 「彼らは彼を尊敬していて、彼のことを博士と呼んだ」：himとProfessorが目的語と補語の関係になると考えて動詞を探す。called

him Professorとする。

- 5 「彼はいつも自分の車をきれいにしておいた」：his carとcleanが目的語と補語の関係になると考えて動詞を探す。kept his car cleanとする。

- 4 1 up 2 to 3 on 4 for 5 to

解説

〈動詞+副詞〉や〈動詞+前置詞〉の句をおぼえるとき、自動詞と他動詞の区別や、副詞と前置詞の区別ができていないと、意味と用法がしっかりと身につきません。

- 1 「立ち上がる」はstand upで表す。〈自動詞+副詞〉の句。
- 2 「～を聞く」はlisten to～で表す。〈自動詞+前置詞〉の句。前置詞のあとには目的語がくる。
- 3 「(マフラーを)する(=身につける)」はput on～で表す。〈他動詞+副詞〉の句。このonは副詞。目的語はputとonのあいだにくることもある。
- 4 「～におくれる」はbe late for～で表す。〈be動詞+形容詞+前置詞〉の句。
- 5 「～しなくてはならない」はhave to～で表す。助動詞のmustに似たはたらきをする句で、toのあとには動詞の原形がくる。

Jump! 実戦カテスト p.50-51

- 1 1 エ 2 ウ 3 ウ 4 イ 5 エ 6 ア

解説

- 1 「私は30分間彼女を待った」：wait for～で「～を待つ」という意味。
- 2 「(あなたは)夢をあきらめてはいけない」：give up～で「～をあきらめる」という意味。このupは副詞。
- 3 「あなたの意見は私の(意見)とはちがう」：

be different from～で「～とちがう」という意味。

- 4 「彼女は世界中で有名になった」：あとに補語がかかる動詞が入る。become famousで「有名になる」という意味。
- 5 「私は彼をととても誠実で親切だと感じた」：〈主語+動詞+目的語+補語〉の文をつくる動詞が入る。find him honestで「彼を誠実だと感じる」という意味になる。
- 6 「(あなたは)今夜は早く寝たほうがいい」：had better～で「～したほうがいい」という意味を表す。助動詞に似たはたらきをする句で、betterのあとには動詞の原形がくる。

- 2 1 for 2 to 3 took[had]  
4 able, to

解説

- 1 「彼の父親は彼にコンピュータを買ってあげた」：buy A B(AにBを買ってあげる)をbuy B for Aの形に書きかえる。
- 2 「彼は私たちに自分の家を見せてくれた」：show A B(AにBを見せる)をshow B to Aの形に書きかえる。
- 3 「私たちは喫茶店でしばらく休憩した」：動詞のrestの意味を、take[have] a rest(ひと休みする、休憩する)で表す。
- 4 「彼女は5か国語を話すことができる」：助動詞can(～することができる)の意味を、be able toを使って表す。

- 3 1 You should tell her the truth.  
2 My mother looks very young for her age. 3 My brother is good at sports.  
4 This temple is famous for its beautiful garden.  
5 What makes you so angry?  
6 You have to keep the room warm.

解説

- 1 「彼女に真実を」の部分(間接目的語+直接目的語)で表す。tell her the truthで「彼女に真実を話す」という意味になる。
- 2 「私の母は若く見えます」を(主語+動詞+補語)の形で表す。動詞はlook(～に見える)を使う。
- 3 「～が得意です」をbe good at～の句で表す。
- 4 「～で有名です」をbe famous for～の句で表す。
- 5 日本語には「なぜ…」とあるが、疑問詞のwhyはない。代わりにあるのがwhat。動詞はmakesだけなので、What makesで文をはじめ、「何があなたをそんなに怒らせているのか」という文にする。
- 6 「部屋をあたたくく」を(目的語+補語)で表す。keep the room warmで「部屋をあたたくくしておく」という意味になる。「～しなくてはなりません」はhave toで表す。

- 4 1 What do your friends call you?  
2 Mr. Tanaka teaches us Japanese.  
[Mr. Tanaka teaches Japanese to us.]  
3 She is proud of her students.  
4 I'm going to visit Tokyo next month.

解説

- 1 「あなた(のこと)を～と呼ぶ」はcall A B(AをBと呼ぶ)の形で表す。ここではBが「何(= what)」なので、Whatを文頭において、疑問文の形にする。
- 2 「私たちに国語を教える」はteach us Japanese。「私たちに」をto～で表して、teach Japanese to usとしてもよい。
- 3 「～を誇りに思う」はbe proud of～の句で表す。
- 4 「～する予定です」はbe going to～の句で表す。toのあとには動詞の原形(ここではvisit)がくる。

## Hop! 基礎確認テスト ..... p.54-55

- 1 ① higher, than ② harder, than  
③ more, interesting, than  
④ more, slowly ⑤ the, highest  
⑥ the, fastest ⑦ the, most, beautiful  
⑧ one, tallest, buildings  
⑨ bigger, than ⑩ earliest, of

## 解説

比較表現の学習では、まず形容詞・副詞の「比較級・最上級の作り方」と、それらを使うときの「表現の基本パターン」をしっかりとおぼえてしまうことが重要です。

- ①何かと何かを比べて、一方が「他方より(もっと)…」と言うときは、〈比較級 + than ~〉の形で表す。than ~ は比較の対象を表す。形容詞(ここでは high)を比較級にするときは、ふつう語尾に -er をつける。
- ②副詞(ここでは hard)も同じようにして比較級にする。
- ③比較的長い形容詞や副詞を比較級にするときは、語形を変化させるのではなく、前に more をおく。
- ④slowly (ゆっくりと)のように -ly でおわる語も、前に more をおいて比較級にすることがある。
- この文のように、比較の対象が明らかなきは、それを省略することもある。
- ⑤ある場所や範囲の中で何かが「いちばん…」と言いたいときは、〈the + 最上級 + in ~〉の形で表す。in ~ は“比較の場所や範囲”を表す。
- 形容詞(ここでは high)の最上級をつくるときは、ふつう語尾に -est をつける。最上級

- の形容詞には原則として the をつける。
- ⑥副詞(ここでは fast)も同じようにして最上級にする。なお、副詞の最上級の場合、前に the をつけないこともある。
- ⑦比較的長い形容詞や副詞を最上級にするときは、語形を変化させるのではなく、前に most をおく。

ここからは、比較級・最上級を使ったさまざまな表現について見ていきます。

- ⑧「最も～な…の1つ」は〈one of the + 形容詞の最上級 + 名詞〉の形で表す。この形では、形容詞の最上級のアとの名詞が複数形になる。
- ⑨比較級の作り方にかんする問題。「短母音 + 子音字」でおわるものは、子音字(ここでは g)を重ねて -er をつける。
- ⑩最上級の作り方にかんする問題。「子音字 + y」でおわるものは、y を i に変えて -est をつける。
- また、「みんなの中で」のように、“比較の場所や範囲”ではなく、“比較の対象全部”をひとまとめにして、「その中で」と言うときは、in ~ ではなく of ~ で表す。

- 2 ① better, than ② best ③ Which, larger ④ much[far], younger  
⑤ darker, and, darker ⑥ as, as  
⑦ not, as[so], as ⑧ as, as, can  
⑨ the, tallest ⑩ taller, than, any, other

## 解説

語形変化には、規則的な変化だけでなく不規則な変化もあります。比較級・最上級の場合も同じです。

- ①形容詞 good (よい、じょうずな)の比較級と最上級は better と best。
- ②副詞の well (よく、じょうずに)の比較級と最上級も better と best。
- ③「どちらのほうが」は、疑問詞の Which で

表す。large は [e] でおわっているため、比較級にするときは -r をつける。

- ④「あなたより若い」なので、young は比較級にする。その比較級を「ずっと」と強めるときは、much や far を使う。
- ⑤ get dark は「暗くなる」の意味。ここでは、その dark (形容詞)を〈比較級 + and + 比較級〉の形で使う。これで「ますます暗く」という意味になる。

〈比較級 + than ~〉は、何かの点で一方が他方より“まさっている”ときに使う表現です。では、“同じくらい”のときはどうするのでしょうか。そんなときに使うのが〈as + 形容詞〔副詞〕 + as ~〉の形です。

- ⑥ become famous で「有名になる」の意味だが、ここは単に famous ではなく、as famous as ~ の形にして「～と同じくらい有名に」の意味にする。
- ⑦「～と同じくらい…」(as … as ~)の否定は「～ほど…ではない」の意味。not as big as ~ で「～ほど大きくない」という意味になる。
- ⑧熟語の問題。〈as … as + 代名詞 + can〉で「できるだけ…」の意味になる。〈as … as possible〉としても同じ意味になる。
- ⑨最上級の文。形容詞の tall を tallest にして、その前に the をおく。
- ⑩⑨の最上級の文と同じ意味を表す文。比較の対象を「クラスのほかのどの男の子 (any other boy)」にして、「ほかのどの男の子より背が高い」とすると「いちばん背が高い」と同じ意味になる。

## Step! 実力養成テスト ..... p.56-57

- 1 ① hotter ② easier ③ older  
④ more important ⑤ better ⑥ more

## 解説

比較級の作り方を確認すると同時に、比較級を使ったさまざまな文の形にも慣れるようにしましょう。

- ① hot (あたたかい)は「短母音 + 子音字」でおわるので、t を重ねて -er をつける。この文では、きょう (の天気) ときのう (の天気) が比べられている。
- ② easy (やさしい)は「子音字 + y」でおわっているため、y を i に変えて -er をつける。
- ③ old (年とった、～歳の)はふつうに語尾に -er をつける。
- ④ important (重要な)は前に more をつけて比較級にする。
- ⑤ well (健康で、元気になって)の比較級は better。なお、この well (better) は副詞ではなく形容詞。
- ⑥ much (多くの、多量の)の比較級は more。この more は名詞の money を修飾している。なお、many (多くの、多数の)の比較級も more。
- このような many, much の比較級としての more は、長めの語 (important など)を比較級にするときに使う more とは別もの。両者を混同しないようにしましょう。more money は money の比較級ではない。

- 2 ① more ② as ③ very ④ much[far]

## 解説

- ①比較級(ここでは more difficult)を使った比較の文では、比較の対象を than ~ で表す。
- ② as … as を使った比較の文では、比較の対象を as ~ で表す。比較の対象の表し方のちがいを確認しておこう。
- ③形容詞や副詞を「とても」と強めるときは very を使う。
- ④形容詞や副詞の比較級を「ずっと」と強めるときは much を使う。比較級を強める副詞

としては、ほかに **far** (はるかに、ずっと) もある。

3 ①エ ②ア ③ウ ④エ ⑤ア ⑥ウ

#### 解説

- ①空所の前に **the** があることから、最上級の文だとわかる。「背が高い」は **high** ではなく **tall**。「あなたのクラスではだれがいちばん背が高いですか」
- ②空所の前後に **as** があることから、〈as … as〉の表現だとわかる。「その湖は私たちの町と同じくらい大きい (= 広い)」
- ③直後の文で「(あなたに) ついていけない」と言っていることから、「もっとゆっくと歩いてくれませんか」という意味にするのが自然。
- ④この文は「この問題は3つ (の問題) の中でいちばんむずかしい」という意味。文末の **the three** (その3つ) は **the three questions** のこと。このように、「比較されるもの (= 比較の対象) 全部の中で」というときは、**in** ~ではなく **of** ~にする。
- ⑤「犬とネコでは、どちらがより好きですか」という文。「A か B か」という選択のときは、疑問詞は **which** を使う。
- ⑥「彼女はトムの3倍の数の本を読む」がこの文の意味。**three times as many … as** ~ (〜の3倍の数の…) の形にする。

- 4 ① (実際の) 年より若く  
② いまのほうが10年前より若く  
③ 母より6歳年上です  
④ ますますよくなってきています

#### 解説

比較表現は、比較の対象を変えることによってさまざまな意味を表すことができます。また、修飾語句がついたり熟語化したりすること

によっても表現がゆたかになります。

- ①この文では、**She looks** (〜に見える) と、**she is** (〜である) が比較されている。「〜である」とは、見た目ではなく実際の若さ (= 年齢) のこと。つまり、比較の対象は「彼女の実際の年齢」ということになる。
- ②この文では、比較の対象は **ten years ago** (10年前)、つまり、「10年前の自分」ということになる。
- ③比較級の前に「程度」を表す語句をおくことがある。この文では **older** の前に **six years** をおいて「6歳年上で」という意味を表している。
- ④〈比較級+比較級〉は「ますます〜」という意味の熟語表現。**get better and better** で「ますますよくなる」という意味。

### Jump! 実戦力テスト ……p.58-59

- 1 ① smaller ② not, as, tall  
③ than, any, other  
④ No, other, science ⑤ as, old, as  
⑥ the, most, important

#### 解説

- ①「あなたの犬は私の犬より大きい」を、単純に主語を入れかえて、「私の犬はあなたの犬より小さい」という意味にする。形容詞も反対の意味のもの (**small**) にする。
- ②「トムはビルより背が高い」を、やはり主語を入れかえて、「ビルはトムほど背が高くない」という意味にする。ここでは〈**not as … as**〉の形を使う。
- ③「彼はクラスでいちばん足が速い」を「彼はクラスのほかのどの生徒よりも速く走ることができる」という意味にする。
- ④「理科は私にとっていちばん興味深い科目です」を「ほかのどの科目も私にとって理科ほど興味深くない」という意味にする。

- ⑤「私たちの先生は私の父と同年です」という意味。**the same … as** ~ で「〜と同じ…」の意味。これを〈**as … as**〉の形を使って書きかえる。形容詞の **old** を使う。
- ⑥「健康よりたいせつなものは何もない」を「健康はいちばんたいせつなものです」という意味の最上級の文に書きかえる。

- 2 ① **His condition is getting worse day by day.** ② **The mountain is much [far] higher than Mt. Takao.**  
③ **She always works twice as hard as others.** ④ **He is one of the greatest musicians in the world.**

#### 解説

- ①「彼の体調は日ごとに悪くなっている」: **bad** の比較級は **worse**。なお、ここで使われている **get** は「〜になる」の意味。
- ②「その山は高尾山よりずっと高い」: 比較級 (ここでは **higher**) を強めるときは、**very** ではなく、**much** や **far** を使う。
- ③「彼女はいつもほかの人たちの2倍、一生けんめい働く」: 〈**twice as … as**〉で「〜の2倍…」の意味。**as** と **as** のあいだの形容詞や副詞は比較級にしない。
- ④「彼は世界で最も偉大な音楽家の1人です」: 〈**one of the + 形容詞の最上級+名詞**〉の形では、名詞は複数形になる。

- 3 ① **I cannot cook as well as my mother.** ② **For me, math is the most difficult subject of all.** ③ **This is one of the best movies of the year.** ④ **There were more than a hundred people in the room.** ⑤ **Which is more popular in Japan, baseball or soccer?** ⑥ **You should start as early as you can.**

#### 解説

- ①「母ほどじょうずに…できない」を、〈**not + as … as**〉 (〜ほど…ではない) の形を使って表す。
- ②「いちばんむずかしい科目」を、最上級を使って **the most difficult subject** とする。
- ③「最もすぐれた映画の1本」を、〈**one of the + 形容詞の最上級+名詞**〉の形で表す。
- ④「〜以上の人」を、**more than** ~ (〜より多い、〜を越える) を使って表す。
- ⑤「どちらのほうが人気があるか」を、**Which is more popular …?** で表す。
- ⑥「できるだけ早く」を、〈**as … as + 代名詞+can**〉 (できるだけ…) の形で表す。**as early as you can** となる。

- 4 ① **It is much [far] colder here than in Tokyo.** ② **What is the most important thing in your life?** ③ **The country is ten times as large as Japan.**  
④ **She is becoming more and more beautiful.**

#### 解説

- ①「ここは寒い」を英語でいうと、**It is cold here.** となる。「東京より」という比較の意味を加えると、**It is colder here than in Tokyo.** となる。「ずっと」は **much** や **far** で表す。
- ②「いちばんたいせつなもの」は、**the most important thing**。「あなたの人生で」 (= 比較の範囲) は **in your life** とする。
- ③「広さがある」という日本語にとらわれると答えが出にくい。形容詞の **large** (大きい、広い) を使って表す。「〜の10倍の広さがある」は **ten times as large as** ~ となる。
- ④「ますます〜」は〈比較級+比較級〉で表すが、**beautiful** のように、前に **more** をおく比較級の場合は、**more** を重ねて **more and more beautiful** とする。

## Hop! 基礎確認テスト ..... p.62-63

- 1 ① clean ② is, cleaned  
 ③ was, built ④ is, written, in  
 ⑤ is, loved, by ⑥ was, covered, with  
 ⑦ is, made, from  
 ⑧ was, surprised, at[by]  
 ⑨ was, born ⑩ is, not, spoken

## 解説

受け身の文とは、動作主ではなく、動作を受ける側(=動作の対象)が主語になる文です。受け身の文では、主語のあとに〈be動詞+過去分詞〉の形がきます。

- ①「彼ら(=動作主)はそうじする(=動作をする)」というふつうの文なので、動詞の clean(そうじする)をそのまま使う。  
 ②「この部屋(=動作の対象)はそうじされる(=動作を受ける)」という受け身の文なので、〈be動詞+過去分詞〉の形にする。  
 ③受け身の文を過去にするときは、be動詞を過去形にする。

受け身の文では、〈be動詞+過去分詞〉のあとにしばしば重要な内容がくるので、注目するようにしましょう。

- ④この文では、in English(英語で)という部分が意味的に重要。受け身の文では、こうした重要な内容が、しばしば〈前置詞+名詞〉の形で表される。  
 ⑤この文では、by everyone(みんなから)の部分が意味的に重要。この by ~ は動作主を表している。  
 ⑥〈be動詞+過去分詞+前置詞〉の形が熟語化することもある。be covered with ~ で

「~でおおわれている」の意味。

- ⑦これも熟語表現。be made from ~ で「~からつくられる」の意味。これは材料が質的に変化してつくられるときに使う。

英語に特有の受け身表現があります。そういうものにも慣れるようにしましょう。

- ⑧感情を表すとき、しばしば受け身が使われる。この文では、「おどろかす」という意味の surprise という動詞が受け身になり、「おどろかされる」⇒「おどろく」という感情表現になる。  
 ⑨「生まれる」「けがをする」なども、受け身を使って表す。この文では、「生む」という意味の bear という動詞が受け身になり、「生まれる」という意味になる。  
 ⑩受け身の否定文の作り方は、be動詞の否定文と同じで、be動詞のあとに not をおけばよい。

- 2 ① When, was, built  
 ② were, killed ③ invited, us  
 ④ were, invited, by, John ⑤ sell  
 ⑥ are, sold ⑦ me, this, watch  
 ⑧ was, given, this, watch ⑨ is, called  
 ⑩ was, spoken[talked], to, by

## 解説

- ①受け身の疑問文の作り方は、be動詞の疑問文と同じ。疑問詞ではじまる場合は〈疑問詞+be動詞+主語〉が文頭にきて、そのあとに過去分詞がつづく。  
 ②これも疑問詞を使った疑問文だが、疑問詞をふくむ How many people が文の主語なので、そのあとはふつうの文の形(ここでは受け身の文の形)がつづく。ここでは、「亡くなった」を、「(事故や災害などで)死亡させる」という意味をもつ動詞の kill を受け身にして表す。

ふつうの文(能動態の文)と、それを受け身(受動態)に書きかえた文を比べて、文の各要素がどのように変化するかを見ておきましょう。

- ③〈主語+動詞+目的語〉の文。動作主の John が、動作を受ける側の us を「招待した(invited)」という文。  
 ④上を受け身にした文。動作を受ける側の We が、動作主の John によって(by)、「招待された(was invited)」という文。  
 ⑤〈主語+動詞+目的語〉の文。動作主(=主語)の They は、特定の人ではなく、店の人たちをばくぜんとさしている。このような動作主は、受け身の文になると示す必要がなくなる。  
 ⑥上の文を受け身にしたもの。⑤の文で目的語だった vegetables が主語になり、動詞 sell が受け身の形(are sold)になる。動作主は特に示す必要はない。  
 ⑦〈主語+動詞+間接目的語+直接目的語〉の文。語順に注意。間接目的語の「私に(me)」が先にくる。  
 ⑧上の文を、間接目的語を主語にして受け身にした文。上の文の直接目的語は〈be動詞+過去分詞〉のあとにくる。  
 ⑨〈主語+動詞+目的語+補語〉の形の文(They call him Bob.)を受け身にしたもの。目的語(him)が主語(He)となり、動詞の call が受け身の形(is called)になる。  
 ⑩「~に話しかける」は speak to ~。speak to は句として1つの意味を表すので、この形のまま受け身にする。be spoken to で「話しかけられる」という受け身の意味になる。動作主(=話しかける人)は by ~ で示す。

## Step! 実力養成テスト ..... p.64-65

- 1 ① visited ② flying ③ made  
 ④ seen ⑤ running ⑥ read

## 解説

be動詞のあとに現在分詞がくると「進行形」になり、過去分詞がくると「受け身」になります。動詞の変化形をおぼえながら、この2つの表現をしっかりと定着させましょう。

- ①日本語は「多くの旅行客が訪れます」となっているが、英文の主語は The castle(その城)なので、受け身の文にする。  
 ②「飛行機は…飛んでいます」は、現在進行形で表す。  
 ③「~でできている」は「~でつくられている」ということなので、受け身で表す。be made of ~ (～でできている)は熟語としておぼえよう。  
 ④富士山は「見る」側ではなく、「見られる」側。したがって、受け身で表す。  
 ⑤「走りまわっていました」は、過去進行形で表す。runの現在分詞は、語尾の n を重ねて running とする。  
 ⑥「読まれています」は、受け身で表す。readの過去分詞は read(発音は[réd])。

- 2 ① cooked ② was stolen  
 ③ English ④ laughed at by

## 解説

- ①主語の Who は「ディナーをつくる」という動作の“動作主”。主語が動作主となる文は受け身ではない。  
 ②主語の What は「ぬすむ」という動作の“動作主”ではなく“動作を受ける側”。このような場合は受け身になる。  
 ③この文は teaches us English(私たちに英語を教える)を、間接目的語の「私たち」を主語にして受け身にしたもの。直接目的語の English が〈be動詞+過去分詞〉のあとにくる。  
 ④ laugh(笑う)は自動詞だが、laugh at ~ (～を笑う)の形になると、他動詞のはた

らきをするようになるため、受け身にできる。受け身にするとき、その形のまま **be laughed at** とする。

- 3** ① with ② at[by] ③ from ④ by  
⑤ in ⑥ to

**解説**

前に見たように、**<be動詞+過去分詞>**のあとにはしばしば**<前置詞+名詞>**の形がきます。ここでは、その前置詞に注目して受け身の文を見てみましょう。

- ①「通りは人びとでいっぱいだった」：  
**be filled with** ~ で「~でいっぱいである」という意味の熟語。
- ②「彼らは彼女の才能におどろいた」：  
**be surprised at** ~ で「~におどろく」という意味の熟語。atのほかにも **by** も使える。
- ③「ワインはブドウからつくられる」：  
**be made from** ~ で「~からつくられる」という意味の熟語。
- ④「この写真はある有名な写真家によって撮られた」：動作主（ここでは写真を撮った人）は **by** ~ で表す。
- ⑤「彼女は日本文化に興味がある」：  
**be interested in** ~ で「~に興味がある」という意味の熟語。
- ⑥「この寺は外国からの観光客によく知られている」：**be known to** ~ で「~に知られている」という意味の熟語。

- 4** ① ラッキーと名づけられた  
② 金メダルをあたえられた (=もらった)  
③ 北海道で生まれた  
④ その事故でけがをした

**解説**

①と②の文では、**<be動詞+過去分詞>**のあとに名詞がきています。比較的少ない形です。こ

れらの名詞の役割に注目しましょう。

- ①この文は、**name A B** (AをBと名づける)を、Aを主語にして受け身にした形の文(⇒AはBと名づけられる)。
- ②この文は、**give A B** (AにBをあたえる)を、Aを主語にして受け身にした形の文(⇒AはBをあたえられる)。
- ③ **be born** で「生まれる」の意味。これも受け身の表現。
- ④ **injure** は「けがをさせる」という意味の動詞。**be injured** で「けがをさせられる」⇒「けがをする」という意味になる。

**Jump!** **実践力テスト** ..... p.66-67

- 1** ① エ ② イ ③ ア ④ エ ⑤ ウ

**解説**

- ①「彼女はその美しい光景に興味した」：  
**excite** は「興奮させる、わくわくさせる」という意味の動詞。**be excited** で「興奮する、わくわくする」という意味になる。なお、過去分詞はしばしば形容詞化する。この **excited** は形容詞と考えてもよい。
- ②「その戦争でどれだけの数の人びとが亡くなりましたか」：事故や戦争などで「死亡する」というときは、しばしば **be killed** という受け身表現が使われる。なお、**die** (死ぬ) は自動詞なので、受け身にはしない。
- ③「私はジョンによってその少女に紹介された」：**introduce A to B** (AをBに紹介する)を受け身にすると、Aが主語の位置に行き、**to B** が過去分詞のあとにくる。
- ④「彼らは彼の演奏に満足した」：**be satisfied with** ~ で「~に満足する」という意味。
- ⑤「彼の演説は多くの人によって聞かれた (=多くの人が彼の演説に耳をかたむけた)」：  
**listen** は自動詞なので、そのままでは受け身にならないが、**listen to** ~ (～を聞く)の形

では受け身になる。

- 2** ① **This game is loved by young people.** ② **I was given this dress by my mother. / This dress was given (to) me by my mother.** (toを入れるのがふつう)  
③ **He was spoken to by a police officer.**  
④ **She is called Angel by her friends.**  
⑤ **Spanish is spoken in Mexico.**

**解説**

- ①「若い人たちはこのゲームが大好きだ」：この文の目的語 (**this game**) を主語にして受け身の文にする。もとの文の主語 (ここでは **young people**) は **by** ~ の形で示す。
- ②「母が私にこのドレスをくれた」：この文には目的語が2つあり (**me** と **this dress**)、どちらを主語にしても受け身の文にできる。主語にならなかったほうの目的語は過去分詞 (**given**) のあとにくる。
- ③「警察官が彼に話しかけた」：**speak to** ~ で「~に話しかける」という意味。この形のまま受け身にする。
- ④「彼女の友人たちは彼女を天使と呼ぶ」：<主語+動詞+目的語+補語>の文。受け身にすると、補語 (**Angel**) は過去分詞 (**called**) のすぐあとにくる。
- ⑤「メキシコでは(人びとは)スペイン語を話す」：目的語 (**Spanish**) を主語にして受け身にする。元の文の主語の **They** は「一般の人びと」をさすので、受け身にした場合、**by** ~ で示すことはしない。

- 3** ① **This room is not used by anyone.** ② **This postcard was sent to me by my sister.** ③ **When was his first book published?** ④ **The festival will be held in January next year.**

- ⑤ **The door was left open all day.**  
⑥ **The boy is taken care of by his grandmother.**

**解説**

- ①日本語は「使っていない」だが、**This room** が主語なので、「使われていない」(**is not used**) というように受け身で表す。
- ②「私に送られてきた」を、受け身を使って **was sent to me** と表す。
- ③「いつ出版されたか」は、**When** のあとにふつうの受け身の疑問文の形 (**be動詞+主語+過去分詞**) をつづける。なお、主語は **his first book**。
- ④「開催される」のは未来のことなので、<**will be** +過去分詞>の形にする。
- ⑤「ドアは…開けっぱなしにされていた」は、**left the door open** (ドアを開けたままにした)を受け身の形にする。
- ⑥「世話してもらっている (=世話されている)」は、**take care of** ~ (～の世話をする) をそのままの形で受け身にする。

- 4** ① **This cup is made of paper.**  
② **The baby was born last night.** ③ **I'm not interested in money.** ④ **What is this flower called in Japanese?**

**解説**

- ①「~でできている」を **be made of** ~ で表す。「紙 (**paper**)」は数えられない名詞なので、**a** をつけたり複数形にしたりしない。
- ②「生まれる」を **be born** で表す。
- ③「~に興味がある」は **be interested in** ~ で表す。「お金 (**money**)」は数えられない名詞。
- ④「この花は～と呼ばれている」なら、**This flower is called** ~ だが、「何と呼ばれているか」なので、**What** を文頭において疑問文にする。「日本語で」は **in Japanese**。

## Hop! 基礎確認テスト ……p.70-71

- 1 ① have, lost ② Has, eaten[had], has ③ went ④ has, gone ⑤ just, finished[done] ⑥ already, eaten[had] ⑦ haven't, read, yet ⑧ left[started], yet, hasn't ⑨ live ⑩ have, lived, for

## 解説

英語には「現在完了」という時間の表現があります。その基本を見ておきましょう。

- ①単に「うで時計をなくした」ではなく、「なくしてしまって、いない」という“現在の状態”もふくめて伝えるとき、現在完了を使う。現在完了は〈have + 過去分詞〉で表す。ここでは lose の過去分詞を使う。
- ②「食べてしまいましたか」には、「(もう) 食べおわっていますか」という“現在の状態”をたずねる意味がふくまれており、現在完了で表す。
- なお、現在完了は、主語が3人称で単数のときは〈has + 過去分詞〉の形になる。
- また、現在完了の疑問文は〈Have[Has] + 主語 + 過去分詞…?〉の形にする。

現在完了には、このように“完了”(=動作の完了)とその“結果”(=現在の状態)を表す用法があります。

- ③これは過去のできごとを客観的にのべている文。動詞の過去形(went)で表す。
- ④単に「行った」ではなく「行ってしまって、いまは向こうにいる」という“現在の状態”もふくめた言い方なので、現在完了(has gone)を使う。
- ⑤これも単に「おえた」ではなく「いまおえたば

かり」という“現在の状態”もふくまれているので、現在完了を使う。

この“完了・結果”を表す用法では、しばしば副詞の just (ちょうど) が使われる。just は過去分詞の前におく。

- ⑥これも現在完了の“完了・結果”を表す用法。この用法では副詞の already (すでに) もよく使われる。
- ⑦“完了・結果”を表す現在完了の否定文。have や has のあとに not をおく。ここでは短縮形の haven't を使う。
- 否定文では、副詞の yet (まだ) がよく使われる。yet はふつう文末におく。
- ⑧“完了・結果”を表す現在完了の疑問文。疑問文の形は②の解説でのべた通り。疑問文でも yet がよく使われるが、疑問文では「もう」の意味になる。

現在完了には、過去から現在までの“継続”を表す用法もあります。

- ⑨これは単に現在の事実をのべている文。動詞の現在形(ここでは live)で表す。
- ⑩単に「住んでいる」ではなく「(5年間ずっと)住んでいる」という“(現在までの)継続”の意味がふくまれている。このようなときも現在完了を使う。
- この“継続”を表す用法では、期間を表す for ~ (～のあいだ) がよく使われる。

- 2 ① been, busy, since ② How, long, lived ③ seen[watched], three, times ④ has, never, fallen ⑤ Have, ever ⑥ has, been, playing ⑦ has, been, loved ⑧ been, to ⑨ ever, been, to ⑩ Where, have, been

## 解説

- ①これも“継続”を表す内容(きのうからずっといそがしい)なので、現在完了で表す。

be動詞の過去分詞は been なので、現在完了は have been ~ の形になる。

“継続”を表す用法では、期間を表す for ~ のほかに、起点を表す since ~ (～以来、～から) もよく使われる。

- ②“継続”の期間をたずねるときはHow long (どのくらいのあいだ)を使う。

現在完了には、現在までの“経験”を表す用法もあります。

- ③「～を(いままでに)3回見たことがあります」という文は(現在までの)“経験”を表している。この用法では、回数を表す ~ times(～回)という句がよく使われる。
- ④“経験”を表す現在完了の否定文。この用法では、否定の意味を表すのに、never (1度も…ない)がよく使われる。never は過去分詞の前におく。
- ⑤“経験”を表す現在完了の疑問文。副詞の ever (いままでに)がよく使われる。ever は過去分詞の前におく。

以上が現在完了の基本的な用法です。ここから先は、そうした用法の応用として、いくつかの表現を見ておきます。

- ⑥現在進行形 (be ~ ing) が現在完了になると、〈have been ~ ing〉の形になり、(現在までの)“動作の継続”を表す。これを「現在完了進行形」という。
- ⑦受け身 (be + 過去分詞) が現在完了になると、〈have been + 過去分詞〉の形になる。ここでは“継続”の意味で使われている。
- ⑧〈have been to ~〉で「～へ行ったことがある」という“経験”の意味を表す。
- ⑨〈have been to ~〉の文が疑問文になった形。副詞の ever は been の前におく。
- ⑩〈have been to ~〉は、「(いま)～へ行ってきたところだ」という“完了・結果”の意味を表すこともある。この文は to ~ の部分を

where (どこへ) でたずねる形になっている。

## Step! 実力養成テスト ……p.72-73

- 1 ① visited ② haven't finished ③ has been angry ④ did you go ⑤ hasn't returned

## 解説

この問題を通して、現在完了の文と過去の文のちがいを、現在完了の文と現在の文のちがいを確認しましょう。

- ①現在完了は、「先月(last month) …した」というように、過去の1時点のできごとをのべるために使うことはない。
- ②「まだ…おえていない」は、現在完了の“完了・結果”の用法で表す。yet (まだ) に注目。
- ③「きのうからずっと…」は、現在完了の“継続”の用法で表す。since ~ (～から) に注目。
- ④「いつ(When) …しましたか」の「いつ」は、過去の1時点を想定しているので、現在完了は使わない。
- ⑤「1年間(ずっと)家に帰っていない」は、現在完了の“継続”の用法で表す。for ~ (～のあいだ) に注目。

- 2 ① I haven't had lunch yet. ② Have you lost your passport? ③ How many times has she visited New York? ④ How long has he been staying here? ⑤ Where have you been?

## 解説

- ①「私は昼食をもう食べてしまった」⇒「私はまだ昼食を食べていない」: 現在完了の否定文は〈have not[haven't] + 過去分詞〉の形にする。「まだ」は yet で表す。
- ②「あなたはパスポートをなくしてしまった」⇒

「パスポートをなくしてしまったのですか」：現在完了の疑問文にするので、have を主語の前に出す。

③「彼女は2回ニューヨークを訪れたことがある」⇒「彼女は何回ニューヨークを訪れたことがありますか」：回数をたずねるときは **How many times** (何回) ではじめる。

④「彼は1週間ここに滞在しています」⇒「彼はどのくらいここに滞在しているのですか」：継続の期間をたずねるときは **How long** (どのくらいのあいだ) ではじめる。

⑤「あなたは(いま) 郵便局へ行ってきたところだ」⇒「あなたは(いま) どこへ行ってきたのですか」：場所をたずねるときは **Where** (どこへ) ではじめる。 **Where have you been?** は決まった言い方。

- 3** ① since ② times ③ ever ④ just  
⑤ for ⑥ yet

**解説**

現在完了の文では、決まった副詞や副詞句がよく使われます。そうした語句になじむことも、現在完了の学習に欠かせません。

- ①「彼はこの前の月曜日から病気です」：「継続」を表す文。継続の起点を **since** ～ (～から) で表す。
- ②「私はそのレストランに数回行ったことがある」：「経験」を表す文。「～回」という意味を ～ **times** で表す。
- ③「あなたはいままでに納豆を食べたことがありますか」：「経験」を表す文。「いままでに」という意味を **ever** で表す。
- ④「彼女はちょうどいまカナダから帰ってきたところだ」：「完了・結果」を表す文。「ちょうどいま」という意味を **just** で表す。
- ⑤「その赤ちゃんは2時間眠りつづけている」：「動作の継続」を表す文。継続の期間を **for** ～ で表す。

⑥「もう歯をみがいてしまいましたか」：「完了・結果」を表す用法。「もう」という意味を **yet** で表す。

- 4** ① has, gone ② been, since  
③ never, visited ④ has, been

**解説**

- ①「彼女はフランスへ行き、いまそこにいる」⇒「彼女はフランスへ行ってしまった」：現在完了の「完了・結果」で表す。
- ②「彼は1997年にパイロットになり、いまもパイロットして働いている」⇒「彼は1997年から(ずっと)パイロットです」：現在完了の「継続」で表す。
- ③「今回が私のはじめてのハワイ訪問だ」⇒「私は以前ハワイを訪れたことはない(=今回ははじめてだ)」：現在完了の「経験」で表す。
- ④「彼は7年前に死んだ」⇒「彼は7年間死んでいる(=死んで7年になる)」：現在完了の「継続」で表す。日本語で「7年間死んでいる」というと変だが、英語では使う表現。

**Jump! 実戦力テスト** ..... p.74-75

- 1** ① ウ ② エ ③ ム ④ ア ⑤ ム ⑥ イ

**解説**

- ①「私の母はこの町で生まれた」： **be born** で「生まれる」の意味。受け身表現。
- ②「ここはどこ？ 私は道に迷ってしまった」： **lose** ～'s way で「道に迷う」の意味。ここでは、これを現在完了の「完了・結果」の用法で使う。なお、**be lost** で「道に迷う」の意味があるが、ここでは使えない。
- ③「私たちはおたがいを10年間知っている(=知り合って10年になる)」：現在完了の「継続」を表す文。継続の期間を **for** ～ で表す。
- ④「私はほんの数日前にその映画を見た」：

はっきりと「数日前」と言っているので現在完了は使わない。過去形で表す。

⑤「私はヨーロッパへは1度も行ったことがない」：現在完了の「経験」を表す **have been to** ～ (～へ行ったことがある) の形を使う。

⑥「彼女は何度も海外旅行をしたことがある」：現在完了の「経験」を表す文。「何度も」という意味を **many times** で表す。

- 2** ① I haven't done my homework yet. ② This letter is written in a foreign language. ③ They have been traveling in Japan for a week. ④ When did you visit Japan for the first time?

**解説**

- ①「私はまだ宿題をやっていない」：現在完了の否定文で「まだ」の意味を表すときは **already** ではなく **yet** を使う。
- ②「この手紙は外国語で書かれている」：これは受け身の文なので **is written** とする。
- ③「彼らは1週間日本を旅している」：「動作の継続」を表す文。継続の期間を表すときは **for** ～ にする。**since** を使う場合は、**since last week** (先週から) などとする。
- ④「あなたが初めて日本を訪れたのはいつですか」： **When** ではじまる疑問文では現在完了は使わない。過去の疑問文にする。

- 3** ① I have already returned the book to the library. ② I have wanted this car for years. ③ They have just arrived at the airport. ④ She has been his fan since childhood. ⑤ How long have you been waiting for the bus?  
⑥ I have never read a more interesting book than this.

**解説**

- ①「返してしまった」を現在完了(完了・結果)で表す。副詞の **already** は **have** と過去分詞のあいだにおく。
- ②「何年間も(=ずっと前から)ほしかった」を現在完了(継続)で表す。**for years** で「何年間も」の意味。
- ③「ちょうどいま着いたところ」を現在完了(完了・結果)で表す。副詞の **just** を **have** と過去分詞のあいだにおく。
- ④「子どものころから彼のファンです」を現在完了(継続)で表す。**since childhood** で「子どものころから」の意味になる。
- ⑤「どのくらい待っているのですか」を現在完了進行形で表す。継続の期間をたずねるときは **How long** を文頭におく。
- ⑥「読んでがありません」を現在完了(経験)で表す。**never** は過去分詞の前におく。なお、この文は、現在完了と比較級を使って最上級の意味を表している。

- 4** ① Have you ever listened to his music? ② I haven't seen him for a long time. ③ Have you taken a bath yet?  
④ How many times have you seen the movie?

**解説**

- ①「いままでに～を聞いたことがありますか」を現在完了(経験)の疑問文で表す。**Have you ever listened to** ～となる。
- ②「～とは長いあいだ会っていません」を現在完了(継続)の否定文で表す。「長いあいだ」は **for a long time**。
- ③「もう入りましたか」を現在完了(完了・結果)の疑問文で表す。「もう」は **yet**。
- ④「見たことがあるのですか」を現在完了(経験)の疑問文で表す。「何回」とあるので、**How many times** ではじめる。

## Hop! 基礎確認テスト …… p.78-79

- 1** ① to, play ② To, speak  
③ to, become[be] ④ to, solve  
⑤ playing ⑥ speaking ⑦ sleeping  
⑧ stolen ⑨ playing, the, piano  
⑩ painted[drawn], by

## 解説

動詞の前に **to** がつくと、それだけでいろいろなはたらきができるようになります。まず、そのうちの1つ、“名詞のはたらき”について見ていきましょう。

- ① play tennis (テニスをする) の play の前に **to** をつけると、「テニスをすること」という意味を表すことができる。この文では、それが動詞 like の目的語になる。
- ② 「英語を話すこと」も、同じようにして **to speak English** とする。この文では、それが主語の役割をする。
- ③ 「歌手になること」も、同じようにして **to become a singer** とする。この文では、それが補語の役割をする。動詞の前に **to** がついた形を「不定詞」という。to のあとの動詞は原形となる。
- ④ 「その問題を解く(=解くこと)」も、同じようにして **to solve the problem** とする。この文では、文頭に形式主語の **It** がおかれ、その **It** がさす **to solve ~** は、文の後ろにおかれる (**It = to solve ~**)。

動詞はまた **~ing** の形になることによって“名詞のはたらき”をすることもあります。これを「動名詞」といいます。

- ⑤ play the piano (ピアノをひく) の play を

playing にすると、「ピアノをひくこと」という意味を表すことができる。この文では、それが動詞 like の目的語になる。

- ⑥ 「英語を話すこと」も、上と同じようにして **speaking English** とする。この文では、それが前置詞 **at** の目的語になる。なお、動名詞はこのように前置詞の目的語になれるが、不定詞はなれない。

動詞の現在分詞 (**~ing**) と過去分詞は、進行形や受け身などで使う変化形ですが、それらは“形容詞のはたらき”をして、名詞を修飾することもあります。

- ⑦ 「あの眠っている赤ちゃん」の「眠っている」は、動詞 sleep (眠る) の現在分詞 **sleeping** で表すことができる。
- ⑧ 「ぬすまれた車」の「ぬすまれた」は、動詞 steal (ぬすむ) の過去分詞 **stolen** で表すことができる。過去分詞が形容詞的に使われる場合は、しばしば「~された」というように受け身の意味を表す。
- ⑨ 「ピアノをひいている女の子」の「ピアノをひいている」は、**playing the piano** で表すことができる。ただし、このように現在分詞に目的語などの語句がつくときは、修飾する名詞の“後ろ”におく。
- ⑩ 「ピカソによって描かれた絵」の「ピカソによって描かれた」は、**painted by Picasso** で表すことができる。ただし、このように過去分詞に副詞句などの語句がつくときは、修飾する名詞の“後ろ”におく。

- 2** ① to, visit ② to, live, in ③ to, support  
④ to, go, to ⑤ with, long, hair  
⑥ near[by] ⑦ after, school  
⑧ to, buy ⑨ to, know ⑩ too, to, walk

## 解説

不定詞 (**to + 動詞の原形**) や前置詞の句 (前置

詞+名詞) も“形容詞のはたらき”をして、名詞を修飾することがあります。

- ① 「訪れるべき」を、不定詞の句 **to visit** で表す。形容詞のはたらきをする不定詞の句は、修飾する語 (ここでは **places**) の後ろにおく。
- ② 「住むための」を、不定詞の句 **to live in** で表す。「~に住む」は **live in ~** なので、**in** をつけたまま不定詞にする。
- ③ 「自分 (=彼) を支えてくれる」を、不定詞の句 **to support him** で表す。
- ④ 「寝る (=就寝する) 時間」の「寝る」を、不定詞の句 **to go to bed** で表す。
- ⑤ 「長い髪をもつ」を、前置詞の **with** (～をもっている) を使った句 **with long hair** で表す。この句は修飾する語 (ここでは **girl**) の後ろにおく。

前置詞の句や不定詞の句はまた、“副詞のはたらき”をして、さまざまな意味を表すことができます。

- ⑥ 「海辺の近くに」という副詞的意味 (場所) を、前置詞 (ここでは **near**) を使って表す。
- ⑦ 「放課後に」という副詞的意味 (時) を、前置詞 (ここでは **after**) を使って表す。こうした形の句はしばしば熟語となる。
- ⑧ 「カメラを買うために (=買いに)」という副詞的意味 (目的) を、不定詞を使って表す。**buy a camera** (カメラを買う) の前に **to** をつけると、「カメラを買うために」という意味を表すことができる。
- ⑨ 「本当のことを知って」という副詞的意味 (感情の原因) を、不定詞を使って表す。**know the truth** (本当のことを知る) の前に **to** をつけると、「本当のことを知って」という意味を表すことができる。
- ⑩ 「つかれすぎていて、～できなかった」を、不定詞を使った熟語の **too … to ~** で表す。**too … to ~** は「~するには…すぎる」⇒「…すぎて～できない」という意味を表す。

## Step! 実力養成テスト …… p.80-81

- 1** ① サッカーをすること  
② テレビでサッカーの試合を見て (=テレビでサッカーの試合を見ることを)  
③ よい本を読むこと ④ 映画をつくること  
⑤ このチームの一員であること  
⑥ その試験に合格すること

## 解説

“名詞のはたらき”をする不定詞と動名詞の句について、それらが文の中でどのような役割をしているかに注目しながら、しっかりと理解するようにしましょう。

- ① **To play soccer** が文の主語の役割をしている。
- ② **watching a soccer game~** が動詞 **enjoy** の目的語の役割をしている。**enjoy ~ing** で「~することを楽しむ、~して楽しむ」という意味。
- ③ **Reading a good book** が文の主語の役割をしている。この文は次のように訳すこともできる。「よい本を読むと私たちは幸せな気持ちになる」
- ④ **to make a movie** がこの文の補語の役割をしている。
- ⑤ **being a member of ~** が前置詞 **of** の目的語の役割をしている。動名詞の **being** (…であること) をしっかりと訳すこと。
- ⑥ **to pass the exam** が文の主語の役割をしている。ただし、通常の主語の位置には形式主語の **It** がおかれていて、**It = to pass the exam** の関係。

- 2** ① at ② to ③ for ④ to

## 解説

前置詞の句も不定詞の句も、しばしば“副詞のはたらき”をします。

1 「そのニュースにおどろいた」の「～に」を、前置詞の **at** を使って表す。なお、不定詞で表すときは、**to hear the news** (そのニュースを聞いて) などとする。

2 「彼と再会できてうれしかった」の「～できて」を、不定詞で表す。これは“感情の原因”を表す不定詞。

3 「言論の自由のために」の「～のために」を、前置詞 **for** を使って表す。なお、不定詞で表すときは、**to protect freedom of ~** (～の自由を守るために) などとする。

4 「家族を幸せにするために」を、不定詞の句 **to make his family happy** で表す。これは“目的”を表す不定詞。

**3** 1 あの(空を)飛んでいる物体

2 川ぞいの桜の花(=その川にそって咲く桜の花) 3 ギターをひいている男の子

4 何か食べるもの(=食べ物) 5 イタリア製の(=イタリアでつくられた)車

6 私と会う時間

#### 解説

“形容詞のはたらき”をする句にはさまざまなものがありますが、どれも名詞を後ろから修飾します。このような“後置修飾”に慣れることも、英語学習では重要です。

1 現在分詞の **flying** が名詞の **object** を修飾している。このように、句ではなく1語で名詞を修飾するときは、名詞の前におく。

ちなみに、**unidentified flying object** というと「未確認飛行物体」つまり「UFO」のことになる。

2 前置詞の句 **along the river** が **cherry blossoms** を修飾している。

3 現在分詞の句 **playing the guitar** が **boy** を修飾している。

4 不定詞の句 **to eat** が **something** を修飾している。

5 過去分詞の句 **made in Italy** が **car** を修飾している。

6 不定詞の句 **to see me** が **time** を修飾している。

**4** 1 **in** 2 **by** 3 **enough** 4 **too**

#### 解説

副詞のはたらきをする前置詞や不定詞の句は、しばしば熟語になっています。こうした熟語も少しずつおぼえていきましょう。

1 「彼は夕食に間に合うように帰宅した」：**in time** (for ~) で「(～に)間に合って」の意味を表す。

2 「ジョーンズさんはこの家にひとりで住んでいる」：**by ~ self** で「ひとりで、独力で」の意味を表す。

3 「彼はひとりで旅をすることができるほど大人だ」：**… enough to ~** で「～するのに十分なほど…」の意味を表す。

4 「彼は内気すぎて彼女に直接話しかけられなかった」：**too … to ~** で「…すぎて～できない」という意味を表す。

#### Jump! 実戦カテスト p.82-83

**1** 1 **ウ** 2 **イ** 3 **イ** 4 **エ** 5 **ア** 6 **ウ**

#### 解説

1 「私たちは彼を見送りに空港へ行った」：“目的”を表す不定詞 (**to see ~**) にする。

2 「私は友人とコンサートに行くのが大好きです」：動名詞の句 (**going to ~**) を動詞 **love** の目的語にする。

3 「彼女は最初は居心地がよくなかった」：**at first** で「最初は」という意味の熟語になる。

4 「近いうちお目にかかるのを楽しみにしています」：**look forward to ~** (～を楽しみにして待つ) の **to** は前置詞なので、動名詞の

句 **seeing ~** を目的語にする。

5 「私は(まだ)若すぎてその映画を理解できなかった」：**too … to ~** (…すぎて～できない) の形にする。

6 「外国語を習得するのはむずかしい」：不定詞の句 **to learn ~** をさす形式主語の **It** を文頭におく (**It = to learn ~**)。

**2** 1 **at, playing** 2 **studying, art**

3 **is, to, be** 4 **called, Mike**

#### 解説

1 「私の妹はじょうずにバイオリンをひく」⇒「私の妹はバイオリンをひくのがとくいです」：**be good at ~** (～がとくだ) を使って言いかえる。**at** のあとは動名詞にする。

2 「私には友人がいる。彼はパリで芸術の勉強をしている」⇒「私にはパリで芸術の勉強をしている友人がいる」：**studying art ~** を形容詞のはたらきをする句にして、**a friend** を後ろから修飾するようにする。

3 「私は科学者になりたい。それが私の夢です」⇒「私の夢は科学者になることです」：名詞のはたらきをする句 **to be a scientist** を **be** 動詞の補語にする。

4 「私はアメリカ人の少年に会った。彼はマイクと呼ばれていた」⇒「私はマイクと呼ばれる少年に会った」：**called Mike** を形容詞のはたらきをする句にして、**boy** を後ろから修飾するようにする。

**3** 1 **Getting up early is good for your health.** 2 **She was sad to hear about the accident.** 3 **Can I have something cold to drink?**

4 **He has a sister living in Australia.**

5 **This is one of the best books written by the author.**

6 **I want to live in a house with a garden.**

#### 解説

1 「早起き」を、動名詞を使い、**getting up early** (早く起きること) とする。

2 「～について聞いて」を、“感情の原因”を表す不定詞を使い、**to hear about ~** とする。

3 「何か冷たい飲み物」を、形容詞的用法の不定詞を使い、**something cold to drink** とする。**-thing** でおわる不定代名詞に対しては形容詞 (**cold**) も後ろにおく。

4 「～に住んでいる姉」を、形容詞のはたらきをする現在分詞を使い、**a sister living in ~** とする。

5 「～によって書かれた(…)本」を、形容詞のはたらきをする過去分詞を使い、**… books written by ~** とする。

6 「庭のある家」を、前置詞の句を使い、**a house with a garden** とする。

**4** 1 **We often learn by[from] making mistakes.** 2 **I had to run to catch the bus.** 3 **It is important to have good friends.** 4 **Our team is strong enough to win the final.**

#### 解説

1 「まちがえることによって」は、動名詞を使い、**by making mistakes** あるいは **from making mistakes** とする。

2 「～に乗るために」は、“目的”を表す不定詞を使い、**to catch ~** とする。

3 「～をもつこと」は、名詞的用法の不定詞を使い、**to have ~** とする。そして、形式主語の **it** を文頭におく。

4 「～に勝つ力が十分にある」は、**strong enough to win ~** (～に勝つのに十分なほど強い) とする。**enough** の位置に注意。

## Hop! 基礎確認テスト ..... p.86-87

- 1 ① to write ② writing ③ to meet  
[see] ④ meeting[seeing] ⑤ reading  
⑥ to study ⑦ talking[speaking]  
⑧ to talk[speak] ⑨ for ⑩ for

## 解説

like (～が好き) のように、動名詞・不定詞どちらが目的語になっても意味がほぼ同じ、という動詞もありますが、どちらが目的語になるかで意味が変わる動詞もあります。

- ① 動詞の try は、不定詞を目的語にすると、「～しようと努力する」という意味を表す。  
② try は、動名詞を目的語にすると、「ために～してみる」という意味を表す。  
③ 動詞の forget は、不定詞を目的語にすると、「～することを忘れない」という意味を表す。  
④ forget は、動名詞を目的語にすると、「～したことを忘れない」という意味を表す。  
一般的に言って、不定詞は“未来の動作”を表すことが多く、動名詞は“すでに現実となった動作”を表すことが多い。

動詞の中には、(名詞や代名詞を別にすると) 動名詞だけを目的語にするものや、不定詞だけを目的語にするものもあります。

- ⑤ 動詞の finish は、動名詞だけが目的語になる。「～するのをおえる、～しおえる」という意味を表す。  
⑥ 動詞の promise は、不定詞だけが目的語になる。「～することを約束する」という意味を表す。  
⑦ 動詞の stop は、動名詞だけが目的語になる。「～するのをやめる、中断する」という意味を

表す。

- ⑧ stop は不定詞を目的語にすることはない。だが、stop は自動詞にもなるので、後ろに“目的”を表す副詞的用法の不定詞をつづけることはできる。その場合は「～するために立ちどまる[していた動作をやめる]」という意味になる。

不定詞の表す動作にも、かならず動作主がいます。その動作主をはっきりと示す必要があるときは、不定詞の意味上の主語(=動作主)をつけます。

- ⑨ 「子どもがこの本を読むこと」というように、不定詞 (to read) の動作主が特定されているので、意味上の主語をつける必要がある。意味上の主語は、for ～ を不定詞の前につけて表す。  
⑩ この文の不定詞 (形容詞的用法) も、「彼女が歌手になる (いい機会)」というように、動作主が特定されているので、意味上の主語 (for ～) をつける。

- 2 ① what, to, say ② how, to, use  
③ where, to, go ④ want, you, to  
⑤ told, me, to ⑥ allowed, me, to  
⑦ was, asked, to ⑧ made, cry  
⑨ let, keep[have] ⑩ helped, finish

## 解説

不定詞の前に疑問詞がついた形の句 (疑問詞 + to ～) は、名詞のはたらきをして、動詞の目的語などになります。

- ① 「何を～すればいいか」は what to ～ の形で表す。to のあとに say がくると「何を言えばいいか」になる。  
② 「～のしかた (= どうやって～するか)」は how to ～ の形で表す。to のあとに use chopsticks がくると「はしの使い方」になる。  
③ 「どこへ [どこで] ～すればいいか」は where

to ～ で表す。to のあとに go がくると「どこへ行けばいいか」になる。

動詞の中には、〈主語+動詞+目的語+to ～〉の形の文をつくるものがあります。代表的な動詞は、want, tell, ask の3つです。これも不定詞の重要な用法の1つです。

- ④ 「人に～してもらいたい」という意味を、〈want +人+ to ～〉の形で表すことができる。この文では「人」= you (あなた)。  
⑤ 「人に～するように言う、命じる」という意味を、〈tell +人+ to ～〉の形で表すことができる。この文では「人」= me (私)。  
⑥ この形の文をつくる動詞はたくさんある。allow という動詞もその1つ。「人が～することを許す」という意味を、〈allow +人+ to ～〉の形で表すことができる。  
⑦ 「人に～してくださいと頼む」という意味を、〈ask +人+ to ～〉の形で表すことができる。ここでは「～してくださいと頼まれた」という意味なので、それを受け身にした形 (be asked to ～) で表す。

〈主語+動詞+目的語+原形〉の形の文をつくる動詞もあります。ここではまず、make, let, help の3つをおぼえましょう。

- ⑧ 「人に [を] ～させる」という意味を、〈make +人+動詞の原形〉の形で表すことができる。「人」のあとに不定詞ではなく動詞の原形 (ここでは cry) がくことに注意。  
⑨ 「人に～させてあげる」という意味を、〈let +人+動詞の原形〉の形で表すことができる。この形の文は、人が何かしようとするのを、そのままさせてあげるときなどに使う。  
⑩ 「人が～するのを助ける、手伝う」という意味を、〈help +人+動詞の原形〉の形で表すことができる。  
なお、help の場合、〈help +人+ to ～〉の形で使うこともある。

## Step! 実力養成テスト ..... p.88-89

- 1 ① to lock ② to go ③ worrying  
④ traveling, to travel ⑤ to study  
⑥ playing

## 解説

不定詞は“未来の動作”を表すことが多く、動名詞は“すでに現実となった動作”を表すことが多いということを頭に入れておきましょう。

- ① 「～するのを忘れない」は、不定詞を使って remember to ～ とする。  
② 「～することを (=しよう) と決心する」は、不定詞を使って decide to ～ とする。decide は不定詞のみを目的語にする。  
③ 「～するのをやめる」は、動名詞を使って stop ～ ing とする。stop は動名詞のみを目的語にする。  
④ 「～するのが大好きです」は、動名詞も不定詞も使える。love はどちらも目的語にできる。  
⑤ 「～することを望む (=したいと思う)」は、不定詞を使って hope to ～ とする。hope は不定詞のみを目的語にする。  
⑥ 「～するのを楽しむ (=～して楽しむ)」は、動名詞を使って enjoy ～ ing とする。enjoy は動名詞のみを目的語にする。

- 2 ① 彼が [彼には] 彼女を忘れること ② むずかしすぎて私には答えられない ③ どうやって [何と行って] あなたに感謝すればいいか ④ どこで切符を買えばいいか

## 解説

- ① for him to forget her の for him は不定詞の意味上の主語。「彼が (=彼には) 彼女を忘れること」という意味。  
② too difficult for me to answer の for me も不定詞の意味上の主語。「私が答えるにはあまりにもむずかしい」という意味。

- ③ how to thank you は「どうやってあなたに感謝したらいいか」という意味。
- ④ where to buy the ticket は「どこで切符を買えばいいのか」という意味。

- 3** ① to take ② covered ③ to take  
④ writing ⑤ to lend ⑥ use

**解説**

不定詞・動名詞・分詞、さらには動詞の原形を、必要に応じて適切に使い分けられるようにしておきましょう。

- ① 「自分の世話をしてくれる」を形容詞的用法の不定詞の句 (to take care of ~) で表す。
- ② 「雪におおわれた」を形容詞的用法の過去分詞の句 (covered with ~) で表す。
- ③ 「どの列車に乗ればいいのか」を〈疑問詞+不定詞〉の句で表す。ここでは which train to ~ の形になる。
- ④ 「詩や物語を書くこと」を動名詞の句 (writing ~) にして、それを前置詞 in の目的語にする。
- ⑤ 「~を貸して欲しくないかと頼みました」を〈ask +人+ to ~〉(人に~してくださいと頼む) の形を使って表す。
- ⑥ 「~を使わせてくれました」を〈let +人+動詞の原形〉(人に~させてあげる) の形を使って表す。不定詞ではなく動詞の原形になることに注意。

- 4** ① あなたに私たちのチームの一員になって (チームに入って) もらいたい  
② 私がディナー [夕食] をつくるのを  
③ 私を家にいさせた [家から出さなかった]  
④ 見せるように言われた [命じられた]

**解説**

〈主語+動詞+目的語+ to ~〉の文、〈主語+動詞+目的語+原形〉の文、どちらの形につい

ても、多くの例文に接して、慣れることがたいせつです。

- ① 〈want +人+ to ~〉(人に~してもらいたい) の形を使った文。become a member of ~ は「~の一員になる」という意味。
- ② 〈help +人+動詞の原形〉(人が~するのを手伝う) の形を使った文。
- ③ 〈make +人+動詞の原形〉(人に~させる) の形を使った文。
- ④ 〈tell +人+ to ~〉(人に~するように言う) を、人を主語にして受け身にした形の文。be told to ~ で「~するように言われる」という意味。

**Jump! 実戦力テスト** ..... p.90-91

- 1** ① ア ② エ ③ ウ ④ イ ⑤ ア ⑥ イ

**解説**

- ① 「私は彼に次は何をすればいいのかたずねた」: what to do で「何をすればいいか」という意味になる。この句では、what は do の目的語の役割をする。
- ② 「私が (=私には) その山にのぼるのはとても大変だった」: 不定詞 (to climb ~) に意味上の主語となる for me をつける。
- ③ 「近い将来ローマを再び訪れたいと思います」: hope は不定詞を目的語にして「~することを望む」という意味を表す。
- ④ 「あなたは自分の部屋をそうじしおわりましたか」: finish は動名詞を目的語にして「~するのをおえる」という意味を表す。
- ⑤ 「その本は私に物事を新しいやり方で見させた (=その本を読んで私はものの見方が新しくなった)」: 〈make +人+動詞の原形〉で、「人に~させる」という意味を表す。in a new way は「新しいやり方で」という意味。
- ⑥ 「彼女は母親といっしょに買い物に行くのが好きです」: go ~ing で「~しに行く」の意

味。この ~ing は現在分詞。

- 2** ① Please remember to wake me up at six tomorrow. ② She was wearing a pink dress made of silk. ③ We enjoyed traveling around the world together. ④ She told me to stop watching TV and (to) do my homework.

**解説**

- ① 「あす6時に私を起こすのを忘れないでください」: 「~するのを忘れない」というときは、remember to ~ の形にする。
- ② 「彼女は絹でできたピンクのドレスを着ていた」: 「~でできた (=~でつくられた) ドレス」というときは、dress made of ~ というように過去分詞を使う。
- ③ 「私たちはいっしょに世界中を旅して楽しんだ」: enjoy は不定詞を目的語にしない。動名詞のみを目的語にする。
- ④ 「彼女は私にテレビを見るのをやめて宿題をしなさいと言った」: 〈tell +人+ to ~〉(人に~するように言う) の形にする。

- 3** ① She started playing tennis at the age of six. ② I don't know when to talk to her. ③ It wasn't easy for her to win the game. ④ Let me introduce my best friend to you. ⑤ He showed us how to ride a horse. ⑥ We want you to make your dream come true.

**解説**

- ① 「テニスをはじめた」は、started playing tennis とする。start は不定詞も動名詞も目的語にする。
- ② 「いつ~したらいいのか」は、when to ~ で表す。「~に話しかける」は talk to ~。

- ③ 「彼女には (=彼女が) その試合に勝つこと」は、to win the game に意味上の主語となる for her をつける。
- ④ 「(私に) ~させてください」は、〈let +人+動詞の原形〉(人に~させてあげる) の形を命令文 (=依頼を表す文) にして使う。「B に A を紹介する」は introduce A to B の形で表す。ここでは、A が my best friend で B が you になる。
- ⑤ 「馬の乗り方」は、how to ~ の形を使って表す。「馬に乗る」は ride a horse。
- ⑥ 「あなたに~してほしい」は、want you to ~ で表す。「夢を実現する (=夢を実現させる)」は、〈make +目的語+動詞の原形〉(…を~させる) の形を使って表す。ここでは、make のあとの目的語が「人」ではなくて「もの」(ここでは your dream) になる。come true は「実現する」という意味。

- 4** ① I forgot to return the book to the library. ② She decided to marry my brother. ③ He helped me (to) solve the problem[question]. ④ I asked him to come with me.

**解説**

- ① 「~することを忘れる」は、forget to ~ で表す。forget は、この意味では不定詞を目的語にする。
- ② 「~することを決める」は、decide to ~ で表す。decide は不定詞を目的語にする。
- ③ 「人が~するのを手伝う」は、〈help +人+動詞の原形〉の形で表す。なお、help は〈help +人+ to ~〉の形でも使えるので、そちらで答えても正解とする。
- ④ 「人に~してくださいと頼む」は、〈ask +人+ to ~〉の形で表す。

## Hop! 基礎確認テスト ..... p.94-95

- 1 ① in ② at ③ on ④ by ⑤ until[till]  
⑥ for ⑦ from, to[till, until] ⑧ in ⑨ at  
⑩ on

## 解説

前置詞は文の中では、つねに“句”として1つの役割をし、まとまった意味を表します。ここでは、その意味に注目しながら、さまざまな前置詞を見ていきます。最初は“時”を表す前置詞です。

- ① 「2002年に」は in 2002 とする。  
前置詞の in は、「年」のほか、「季節」や「月」などを表すときにも使う。  
in summer (夏に)  
in September (9月に)  
in the 19th century (19世紀に)  
また、次のような決まった表現でも使う。  
in the morning (朝に、午前)  
in the afternoon (午後)
- ② 「6時30分に」は at six thirty とする。  
前置詞の at は、「時刻」など、“時の1点”を示すときに使う。  
at noon (正午に)  
at the same time (同時に)  
at (the age of) seven (7歳のときに)  
また、次のような決まった表現もある。  
at night (夜)
- ③ 「日曜日に」は on Sunday とする。  
前置詞の on は、「曜日」のほか、「日」や「特定の日の午前・午後」などにも使う。  
on July 7 (7月7日に)  
on my birthday (私の誕生日に)  
on Monday morning (月曜日の朝に)

- ④ 「～までに」というように、“期限”を表すときは by を使う。
- ⑤ 「～まで」というように、“継続”(の終点)を表すときは until を使う。until と同じ意味で till も使われる。“期限”を表す by (～までに) とまぎらわしいので注意が必要。
- ⑥ 「～のあいだ、～間」というように、“期間”を表すときは for を使う。  
for two years (2年間)  
for a long time (長いあいだ)
- ⑦ 「～から」というように、“起点”を表すときは from を使う。「～まで」は to または till[until] を使う。  
from morning till night (朝から晩まで)  
from beginning to end (はじめから終わりまで)

次は“場所”や“位置”を表す前置詞です。“時間”(when)にかんする前置詞に対して、“空間”(where)にかんする前置詞といってもいいかもしれません。

- ⑧ 「キッチンに」は in the kitchen とする。前置詞の in は、“1つの空間”を示すときに使う。  
in the sky (空に [で])  
in New York (ニューヨークに [で])  
in my hand (私の手 [の中] に)  
in the picture (その写真の中に)
- ⑨ 「次の角で」は at the next corner とする。前置詞の at は、“場所の1点”を示すときに使う。  
at the station (駅で)  
at the top of the hill (丘の頂上で [に])  
なお、同じ場所でも、とらえ方によって in になったり at になったりする。
- ⑩ 「テーブルの上に」は on the table とする。前置詞の on は、表面に接して、その上にのっているときに使う。その表面は、地面でもテーブルでも壁でもかまわない。  
on the floor (床の上に)

on the wall (壁にかかって)  
on the blackboard (黒板に)

- 2 ① between ② among ③ along  
④ across ⑤ with ⑥ by ⑦ on ⑧ into  
⑨ out, of ⑩ in, front

## 解説

- ① 「(2つのもの)のあいだに」というときは、前置詞は between を使う。between A and B で「AとBのあいだに」という意味。
- ② 「(3つ以上のもの)のあいだに、～の中で」というときは among を使う。
- ③ 「(川など)にそって」というときは along を使う。along はまた「(道など)を通して」というときにも使う。  
walk along the street (通りを歩く)
- ④ 「(道・川など)を横切って」というときは across を使う。across はまた「(道・川など)の向こう側に」というときにも使う。

次は“方法・手段”(how)にかんする前置詞を見ていきましょう。

- ⑤ 「(えんぴつ)で」というように、“道具”を表すときは with を使う。  
work with a computer (コンピュータを使って仕事をする)
- ⑥ 「(乗り物)で」というように、“移動手段”を表すときは by を使う。by のあとの乗り物を表す名詞は無冠詞。  
on the radio (ラジオで)  
on the phone (電話で)
- ⑦ 「(テレビ)で」というように、“器具”を表すときはしばしば on を使う。

最後に、2つの語が結合してできた前置詞や、句として前置詞のはたらきをするものについて少し見ておきましょう。

- ⑧ 「(部屋)の中へ」というように、動きをと

もなって「～の中へ」というときは into を使う。これは in と to が結合してできた前置詞。

- ⑨ 「(部屋)から外へ」というように、動きをともなって「～から外へ」というときは out of を使う。
- ⑩ 「～の前に」という意味を in front of ～で表す。この in front of は句全体で1つの前置詞のはたらきをする。

## Step! 実力養成テスト ..... p.96-97

- 1 ① by ② during ③ in ④ since  
⑤ by ⑥ for

## 解説

前置詞の学習では、とにかくたくさんの実例に接して、個々の前置詞に慣れ親しんでいくことがたいせつです。

- ① 「来月までには」は“期限”を表しているので by (～までに) を使う。
- ② for も during も「～のあいだ」という意味を表すが、あとに時間的な長さを表すことばがくるときは for を使い、あとに特定の期間や行事などを表すことばがくるときは during を使う。
- ③ in は“時の経過”を表して、「～たてば、～後に」の意味で使うことがある。
- ④ 「先週からずっと」というように“現在までの継続の起点”を表すときは since (～以来、～から) を使う。
- ⑤ 「飛行機で」は“移動手段”を表しているので by (～で) を使う。
- ⑥ for は「～のわりには、～としては」の意味で使うことがある。

- 2 ① at ② with ③ for ④ on

## 解説

- ① 「私たちはあるフランス料理店でディナーを

食べた」[英語の授業は 10 時から (= 10 時に) はじまる]

- 2 「そのショートヘアをもった (= ショートヘアの) 少女は私の妹です」[私はよく兄とテニスをします]
- 3 「運動は健康に (とって) よい」[私は 10 年間 (ずっと) ここに住んでいる]
- 4 「彼は 9 月 10 日に日本を発った」[床 (の上) には美しいじゅうたんが (敷いて) あります]

- 3** ① into ② above ③ under  
④ between ⑤ across ⑥ along

**解説**

- 1 「この川は東京湾 (の中) へと流れ込む」:  
into には「～の中へ」という意味がある。
- 2 「海の上で月が輝いている」:  
above は「(離れて) 上に、上で」というときに使う。ちなみに、on は「(接して) 上に、上で」というときに使う。
- 3 「あの木の下でひと休みしましょう」:  
under には「～の下で」という意味がある。
- 4 「その少年は両親のあいだで (= 両親にはさまれて) うれしそうに歩いていた」:  
between は「(2 つのもの) のあいだで」の意味。ここでは後ろに A and B の形ではなく「両親 (his parents)」がきている。
- 5 「ここで通りを渡るのは危険です」:  
walk across ~ で「～を横切って歩く」⇒ (歩いて) 渡る」という意味になる。
- 6 「この通りを進んで、2 つめの角を左に曲がりなさい」:  
along には「～にそって、～を通って」という意味がある。

- 4** ① 悪天候のために  
② はじめからおわりまで  
③ 私の家の前で  
④ あなたの助言のおかげで

**解説**

ひとまとまりの句が前置詞のようなはたらきをすることがありますが、そうしたのについては、熟語としておぼえるようにしましょう。

- 1 because of ~ は「理由」を表すときに使う。  
[～のせいで、～のために]
- 2 from A to B で「A から B まで」の意味。  
from beginning to end (はじめからおわりまで) も熟語表現になっている。
- 3 in front of ~ で「～の前に、～の前で」という意味を表す。
- 4 thanks to ~ で「～のおかげで、～のせいで」という意味を表す。because of ~ としてもほとんど意味は変わらない。

**Jump! 実戦力テスト** ..... p.98-99

- 1** ① ウ ② エ ③ ア ④ ウ ⑤ エ ⑥ イ

**解説**

- 1 「私たちは昨夜 9 時まで (ずっと) あなたのことを待ちました」:  
until を使って「～まで (ずっと)」という意味を表す。
- 2 「彼らはその問題について電話で話した」:  
on the phone で「電話で」という意味を表す。この on は「手段・方法」を表している。
- 3 「太陽は東の方で (= 東から) のぼる」:  
in は「～の方に、～の方で」というように、「方角」を表すことがある。
- 4 「やっと彼女は人込みの中に彼を見つけた」:  
among は、あとに複数名詞や集合を表す名詞がきて、「～のあいだに、～の中に」などの意味を表す。ここでは集合を表す名詞 crowd があとにきて「人込み [群衆] の中」という意味を表す。
- 5 「箱根での滞在中に (= 箱根に滞在しているあいだに) 私はその美術館を訪れた」:  
during を使って「(特定の期間) のあいだに」という意味を表す。

- 6 「私は駅へ行くとちゅうでジョンに会った」:  
on ~ 's way で「とちゅうで」の意味を表す。後ろに to ... がつくと「…へ行くとちゅうで」となる。

- 2** ① in ② by ③ from ④ of

**解説**

- 1 「コンサートはあと 30 分で (= たてば) はじまります」[彼らは 1 列になって (= 列を成して) 立っていた」:  
in は「～の形で、～を成して」というように、「形状」を表すことがある。たとえば、in a circle だと「輪になって」という意味になる。
- 2 「彼はいつもは車で会社へ行く」[この嵐はあすの朝までにはおさまっているだろう」:  
by のこの 2 つの用法(「移動手段」と「期限」)は、どちらも重要。
- 3 「バルコニーから富士山が見える」[彼らは 1 日じゅう歩いたためにとてもつかれていた」:  
from は「～が原因で、～のために」というように、「原因」を表すことがある。
- 4 「私はきのう 1 人の古い友人に会った」[その病院の前にバスの停留所がある」:  
my friend には冠詞の a (ある 1 人の) をつけることはできない。つけたいときは a friend of mine のようにする。これは決まった言い方としておぼえておこう。in front of (～の前) は前置詞のはたらきをする熟語。

- 3** ① It is very pleasant to drive along the coast. ② Will you lend me the book for a few days? ③ I will return the money within a month. ④ A bird came down and flew right over my head. ⑤ Our bus was late because of the snow. ⑥ There are many differences between Japanese and English.

**解説**

- 1 「海岸ぞいをドライブする」を drive along the coast とする。along ~ は「～にそって」の意味。
- 2 「何日か」を for a few days (数日間) とする。for ~ は「期間」を表す。
- 3 「1 か月以内に」を within a month とする。within ~ は「～以内に」の意味。
- 4 「私の頭の上を」を over my head とする。over ~ は「～の上を」の意味。「ちょうど～の上を」の「ちょうど」は、副詞の right を使って表す。right over my head とする。
- 5 「雪のために」を because of the snow とする。because of ~ は「理由」を表す。
- 6 「日本語と英語のあいだには」を between Japanese and English とする。このように between A and B は、現実の空間からはなれて使うこともできる。

- 4** ① What did you have for lunch today? ② He has been sick since last Sunday. ③ Do you eat sushi with chopsticks? ④ She went out of the room without saying anything.

**解説**

- 1 「昼食に」は for lunch とする。この for は「～向きに、～用に」などの「用途」の意味を表す。
- 2 「～から (ずっと)」は since を使って表す。現在完了の「継続」を表す文にする。
- 3 「はしで食べる」を eat with chopsticks とする。この with は「道具」を表す。
- 4 「～から出ていく」は go out of ~ で表す。out of ~ は「～から (外へ)」の意味。「～言わずに」は、動名詞の saying ~ を without の目的語にする。

## 接続詞と疑問詞

## Hop! 基礎確認テスト …… p.102-103

- 1 ① and ② both, and ③ but ④ so  
⑤ or ⑥ when ⑦ before ⑧ While  
⑨ Because[As, Since]  
⑩ Though[Although]

## 解説

接続詞には大きく分けて2つの種類があります。

1つは、文と文や、語句と語句を対等につなぐはたらきをする接続詞です。

- ① 2つの文 (She had ~ と I had ~) を、単純に「そして」とつなぐときは、接続詞の and を使う。
- ② 単に「A と B」なら A and B でいいが、「A と B を両方とも」の「両方」を強調したいときは both A and B という。
- ③ 「電話をしたが…」のように、2つの文を“逆接”の関係でつなぐときは、接続詞の but (しかし、だが) を使う。
- ④ 「それで…、なので…」のように、結果や帰結を表す文を後ろにつなげるときは、接続詞の so (そこで、それで) を使う。
- ⑤ 「～しなさい、さもないと…」と言うときは、〈命令文 + or …〉という決まった形を使う。or は「～かまたは…」という意味の接続詞。

もう1つの接続詞は、副詞のはたらきをする節 (=副詞節) や名詞のはたらきをする節 (=名詞節) をつくる接続詞です。

- ⑥ この文は「私の妹は…生まれた」が骨格で、「私が3歳のときに」は、文全体の中では、“時を表す副詞”のはたらきをしているにすぎない。この副詞節をつくるのが、when (～のとき) という接続詞。

- ⑦ 「～する前に」という意味の副詞節をつくるときは、接続詞の before を使う。
- ⑧ 「～するあいだに」という意味の副詞節をつくるときは、接続詞の while を使う。
- ⑨ 「～だから、～なので、なぜなら～」というように“理由”を表す副詞節をつくるときは、接続詞の because を使う。
- ⑩ 「～だけれども」という意味の副詞節をつくるときは、接続詞の though を使う。

副詞句をつくる前置詞が〈前置詞+名詞〉の形をとるのに対して、副詞節をつくる接続詞は〈接続詞+文〉の形をとります。

- 2 ① If, rains ② As, as ③ so, that  
④ that ⑤ that, was ⑥ where, he, lives  
⑦ what, she, wanted ⑧ who, won[got]  
⑨ that ⑩ if[whether]

## 解説

- ① 「もし～なら」というように“条件”を表す副詞節をつくるときは、接続詞の if を使う。条件を表す副詞節の中では、未来のことを表すときも動詞を“現在形”で使う。ここも If it rains tomorrow というように、動詞を現在形にする。
- ② 「～したらすぐに」という意味の副詞節をつくるのは、as soon as という熟語。この熟語が接続詞のはたらきをする。なお、時を表す副詞節の中でも、未来のことを表すのに動詞を現在形で使う。ここでも as soon as I get home というように、現在形の動詞が使われている。
- ③ 「とても…なので～」という意味を、接続詞を使った熟語 (so … that ~) で表す。

ここからは名詞節について見ていきます。接続詞の that を使った〈that + 文〉の形の節は、名詞のはたらきをして「～ということ」という意

味を表します。

- ④ 接続詞の that は、あとに文の形 (ここでは she loves John) がきて、「～ということ」という意味の名詞節になる。そして、その名詞節が、この文では動詞 know の目的語になっている。なお、この that は省略が可能。
- ⑤ この文でも、that が名詞節をつくり、それが動詞の found (～と感じた、わかった) の目的語になっている。
- なお、found が過去形なので、その目的語となる that 節の中の動詞も過去形にして、両者の時制を一致させる必要がある。

疑問詞も名詞節をつくる場合があります。ただし、疑問文がそのまま名詞化するのではなく、「間接疑問」という形になって、名詞節となります。

- ⑥ 「彼はどこに住んでいるか」という意味の間接疑問 (=名詞節) をつくるときは、where のあとに、疑問文の形 (does he live) ではなく、ふつうの文の形 (he lives) をつづける。
- ⑦ 「彼女は何をほしいのか」という意味の名詞節をつくるときは、what のあとにふつうの文の形 (she wants) をつづける。
- なお、asked が過去形なので、その目的語となる名詞節の中の動詞も過去形にして、両者の時制を一致させる必要がある。
- ⑧ 「だれが金メダルをとったか」という意味の名詞節をつくるときは、who が主語なので、そのまま who won ~ とする。

最後に、接続詞を使った節の用法をあと2つ見ておきましょう。that と if を使った節です。

- ⑨ 形容詞の中には、〈be動詞+形容詞+that ~〉という形をつくるものがある。sure もその1つ。be sure that ~ で「～ということを確認している」という意味になる。なお、この that も省略が可能。
- ⑩ 接続詞の if も名詞節をつくることがある。

〈if + 文〉の形で「～かどうか」という意味の名詞節をつくり、動詞の目的語などになる。

## Step! 実力養成テスト …… p.104-105

- 1 ① but ② and ③ Either ④ for  
⑤ so

## 解説

ここで取りあげる接続詞は、どれも文と文を対等につなぐ接続詞です。名詞節や副詞節のように、文の一要素として取り込まれるわけではありません。

- ① 「行ったのですが、休みでした」は、“逆接”の関係なので、but でつなぐ。
- ② 「～しなさい、そうすれば…」は、接続詞の and を使い、〈命令文 + and …〉の形で表す。and と or の使い分けに注意。
- ③ 「A か B かどちらか」は、〈either A or B〉の形で表す。A B にはさまざまな要素が入るが、ここでは文がまるごと入っている。
- ④ 「～、というも…からだ」は、“理由”を表す接続詞の for でつなぐ。
- この for は、前でのべたことにつけたすようにして理由をのべるときに使う。
- ⑤ 「バスがなかったので、(それで…)」というように“結果”をのべている。このようなときは接続詞の so を使う。

- 2 ① 看護師ではなくて ② さもないと、(あなたには) 二度と [次の] チャンスはありませんよ ③ 宿題をすませたあと (に)  
④ 私たちが子どもだったころから (=子ども  
のころから) ⑤ 家を出たとたんに

## 解説

- ① but を使った決まった言い方。〈not A but B〉で「AではなくてB」という意味。
- ② 〈命令文 + or …〉で「～しなさい、さもない

と…」という意味になる。

- ③ after には前置詞だけでなく接続詞としての用法もある。あとに文の形がきて、「～したあと(に)」の意味になる。
- ④ since にも前置詞だけでなく接続詞としての用法がある。あとに文の形がきて、「～以来、～から(いままで)」の意味になる。
- ⑤ as soon as ～ は「～するとすぐに」という意味の決まった表現。あとに文の形がきて、接続詞のようにして使う。

- 3 ① if ② until ③ because  
④ Though ⑤ that ⑥ while

#### 解説

ここで取りあげる接続詞は、文の一要素となる節(副詞節や名詞節)をつくる接続詞です。文の中でどのような役割をしているかに注目しながら見ていきましょう。

- ① 「もしもあした雪がふったら、あなたはどのようにして学校へ行きますか」: if を使って条件を表す副詞節をつくる。
- ② 「私がもどってくるまで、子どもたちの世話をしてください」: until を使って時を表す副詞節(～まで)をつくる。節の中の動詞(return)が現在形になっていることにも注目。
- ③ 「あまりにも暑かったので、よく眠れなかった」: because を使って理由を表す副詞節をつくる。
- ④ 「彼はとても若いけれど、多くの国へ行ったことがある」: though を使って、「～だけれども」という意味の副詞節をつくる。
- ⑤ 「彼女は私に気分が悪いと言った」: that を使って、動詞 told の直接目的語となる名詞節(～ということ)をつくる。なお、この文は tell A B (A に B を言う) の形の文。B が that 節になっている。
- ⑥ 「私は昨夜、テレビを見ているあいだに眠ってしまった」: while を使って時を表す副詞

節(～するあいだに)をつくる。

- 4 ① I don't understand what you are saying. ② She is afraid (that) something bad will happen to him.  
③ If the storm comes tomorrow, the game will be canceled. ④ She was so surprised that she couldn't even say a word.

#### 解説

- ① 「私はあなたが何を言っているのか理解できない」: 間接疑問では、疑問詞のあとにく主語+動詞)の形がつづく。
- ② 「彼女は彼の身に何か悪いことが起こるのではないかと心配している」: be afraid that ～ で「～を心配する」の意味になる。of は不要。that は省略できる。
- ③ 「あす嵐が来たら、その試合は中止される」: 条件を表す副詞節では、未来のことも現在形で表す。will come は comes にする。
- ④ 「彼女はとてもおどろいたので、ひと言もことばがでなかった」: ここでは so … that ～ (とても…なので～) の形を使う。

#### Jump! 実戦力テスト …… p.106-107

- 1 ① ウ ② ア ③ エ ④ エ ⑤ ウ

#### 解説

- ① 「私は小さな少女だったときは名古屋に住んでいました」: when を使って時を表す副詞節(～するとき)をつくる。
- ② 「暗くなる前に家に帰ったほうがいい」: before を使って時を表す副詞節(～する前に)をつくる。
- ③ 「あなたはなぜ怒っているのですか。— (なぜなら) だれかが私のケーキを食べてしまったからです」: Why ではじまる疑問文に対し

ては、Because ～ で答える。

- ④ 「妹私もピアノをひけません」: neither A nor B で「A も B も…ない」という意味を表す。ややむずかしい表現。
- ⑤ 「あした雨がふったら、私たちはピクニックへは行きません」: 条件を表す副詞節の中では、未来のことも現在形で表す。

- 2 ① so, that ② While ③ or ④ so  
⑤ Though[Although]

#### 解説

- ① 「その問題はむずかしすぎて私には答えられない」: too … to ～ (…すぎて～できない) は so … that ～ (とても…なので～) を使って書きかえられる。
  - ② 「ローマに滞在しているあいだに私はたくさん<sup>おほく</sup>の史跡を訪れた」: during my stay ～ という副詞句を、while I was staying ～ という副詞節に書きかえる。
  - ③ 「もしもいまずぐ出かけないなら、学校におくれるでしょう」: If 節の内容(もしも～しないと)を、<命令文+ or> (～しなさい、さもないと) で表す。
  - ④ 「私は1日じゅう家にいました。というのも、ひどいかぜをひいていたからです」: “理由”を表す for ～ (なぜなら～からだ) を、“結果”を表す so (～なので、それで) を使って書きかえる。
  - ⑤ 「これは小さな一歩ですが、とても重要な一歩です」: but は前の内容を受けて「～だが、しかし」という意味を表す。これを though ～ (～だけれども) を使って書きかえる。
- 3 ① I asked him where he was going. ② I'm sure that he will become a great scientist. ③ I'm afraid I can't attend the meeting next week.

- ④ He can play not only the guitar but also the violin. ⑤ He always tells me nothing is impossible. ⑥ I don't know if she will come to the party.

#### 解説

- ① 「(彼が) どこへ行くのか」を、間接疑問の where he was going で表す。
- ② 「～と確信しています」を、be sure that ～ の形を使って表す。
- ③ 「あいにく～と思います」を、I'm afraid (that) ～ で表す。I'm afraid のときは、ふつう that は省略する。
- ④ 「ギターだけでなくバイオリンも」を、not only A but also B (A だけでなく B も) の形を使って表す。
- ⑤ 「彼はいつも私に～と言います」は、He always tells me that ～。ただし、that はないので、that を省略した形で使う。
- ⑥ 「～かどうか」を、if ではじまる名詞節で表す。この if ～ は名詞節なので、未来を表すときはふつうに will ～ となる。

- 4 ① Please wait here until I call you.  
② Do you know why she was crying?  
③ Please call me as soon as you arrive at the airport. ④ I think (that) both children and adults will like this book.

#### 解説

- ① 「私が(あなたを)呼ぶまで」を、副詞節の until[till] I call you で表す。
- ② 「彼女がなぜ泣いていたのか」を、間接疑問の why she was crying で表す。
- ③ 「～に着いたらすぐに」を、副詞節の as soon as you arrive at ～ で表す。
- ④ 「私は～と思う」は、I think (that) ～ で表す。「大人も子どもも両方とも」は、both A and B の形を使って表す。

## Hop! 基礎確認テスト ……p.110-111

- 1 ① who, can, speak ② who, loves, Mary ③ whom[who], Mary, loves  
④ I, met ⑤ I, like ⑥ which, won[got]  
⑦ which, are ⑧ which, I, bought  
⑨ I, saw[watched] ⑩ you, gave, me  
\* who, whom, which は that に代えられる。

## 解説

前章で、副詞節と名詞節を習いましたが、ここでは形容詞節 (= 形容詞のはたらきをする節) について見ていきます。その形容詞節をつくるのが「関係代名詞」です。

- ① “人”を表す語の後ろに〈who + 動詞…〉の形の節をおくと、その節が形容詞のはたらきをして、「～する人」という意味になる。ここでは、anyone の後ろに who can speak ～をおくと、「～を話せる人」という意味になる。
- ② boy の後ろに who loves ～をおくと、「～を愛している男の子」という意味になる。
- ③ “人”を表す語の後ろに〈whom + 主語 + 動詞…〉の形の節をおくと、「S が～する人」という意味になる (S = 主語)。ここでは、boy の後ろに whom Mary loves をおくと、「メアリーが愛している男の子」という意味になる。
- ④ man の後ろに whom I met をおくと、「私が会った男の人」という意味になる。この形の修飾では whom は省略されることが多く、ここでも省略する。
- ⑤ teacher の後ろに (whom) I like ～をおくと (whom は省略)、「私が～好きな先生」という意味になる。

ここまでは“人”に対する修飾でした。これから

は“もの・動物”に対する修飾です。もの・動物の場合は、who, whom ではなく which を使います。

- ⑥ book の後ろに which won ～をおくと、「～を獲得した本」という意味になる。
- ⑦ dogs の後ろに which are always barking をおくと、「いつもほえてばかりいる犬」という意味になる。なお、which のあとの動詞は、修飾される語 (ここでは dogs) に合わせる。
- ⑧ book の後ろに which I bought をおくと、「私が買った本」という意味になる。
- ⑨ movie のあとに which I saw をおくと、「私が見た映画」という意味になる。この形の修飾では、which は省略されることが多く、ここでも省略する。
- ⑩ cat の後ろに (which) you gave me をおくと (which は省略)、「あなたが私にくれたネコ」という意味になる。

- 2 ① that[which] ② that[which]  
③ that[who] ④ who[that]  
⑤ whose, uncle ⑥ whose  
⑦ which[that], in ⑧ in, which  
⑨ which[that] ⑩ what

## 解説

ここまで、who, whom, which の3つについて見てきましたが、そのどれの代わりにもなるのが、関係代名詞の that です。

- ① song の後ろに which made him ～をおくと、「彼を～にした歌」という意味になる。which の代わりに that も使える。
- ② subject の後ろに which[that] interests him をおくと、「彼の興味をひく科目」という意味になる。なお、subject には前に the only という修飾語がついている。このようなときは、しばしば that が使われる。the only のほか、the first や最上級の形容詞、all, every な

どがつくときも that がよく使われる。

- ③ people の後ろに who came をおくと、「来た人たち」という意味になる。people には All という修飾語がついており、もちろん that を使ってもよいが、人を修飾する場合は who のほうがふつう。

ここからは、その他の関係代名詞や、注意したい用法について見ておきます。

- ④ friend の後ろに who lives in ～をおくと「～に住んでいる友人」という意味になる。次の whose の節と比べてみよう。
- ⑤ friend の後ろに whose uncle lives in ～をおくと、「(その) おじさんが～に住んでいる友人」という意味になる。この whose (～) ではじまる節が friend を修飾している。
- ⑥ movie の後ろに whose ending you can't guess をおくと、「(その) 結末が見当もつかない映画」という意味になる。whose は「人」だけでなく「もの」に対しても使える。
- ⑦ town の後ろに which we live in をおくと、「私たちが住んでいる町」という意味になる。which が前置詞 in の目的語の役割をはたしていることに注意。
- ⑧ town の後ろに in which we live をおくと、⑦と同じ意味になる。in の位置は which の前にきている。このように、前置詞が関係代名詞の前に出ることがある。(ただし、関係代名詞 that はこの形にはならない。)
- ⑨ bike の後ろに which I have wanted をおくと、「私が(ずっと)ほしかった自転車」という意味になる。
- ⑩ thing の後ろに which I have wanted をおくと、「私が(ずっと)ほしかったもの」という意味になる。それと同じ意味を what I have wanted で表すことができる。この what は特別な関係代名詞で、それだけで「～するもの」という意味を表す。

## Step! 実力養成テスト ……p.112-113

- 1 ① その本を書いた  
② 彼女が結婚しようとしている  
③ およそ100年前に建てられた  
④ 彼がくれた指輪を  
⑤ (いままでに) 訪れたことのあるただ1つの外国は

## 解説

関係代名詞の節は「形容詞節」なので、修飾される語との関係さえつかめれば、日本語にするのはむずかしくありません。

- ① 修飾される語は man で、修飾する節は who wrote the book (その本を書いた)。
- ② 修飾される語は man で、修飾する節は she is going to marry (彼女が結婚しようとしている)。
- ③ 修飾される語は house で、修飾する節は which was built … (…建てられた)。
- ④ 修飾される語は ring で、修飾する節は he gave her (彼が彼女にあげた)。her は間接目的語。
- ⑤ 修飾される語は country で、修飾する節は that I have visited (私がいままでに訪れたことのある)。なお、country には前にも The only foreign という修飾語句がついている。

- 2 ① which ② who ③ whose  
④ in which ⑤ what

## 解説

- ① 修飾される語が“人”ではないので which を使って形容詞節をつくる。
- ② whom を使う形容詞節は〈whom + 主語 + 動詞…〉の形になる。ここはすぐあとが動詞の wants なので、〈who + 動詞…〉の形の形容詞節になる。
- ③ 同級生 (classmate) ではなく、「その人のお

兄さん (whose brother) がミュージシャンだ」という内容の形容詞節にする。

- 4 that は〈前置詞+関係代名詞〉の形をつくれないので、in which とする。この in は which we live in (私たちが住む) の in が前に出たもの。
- 5 「～するもの」という意味の“名詞節”をつくる関係代名詞は what。関係代名詞はふつう形容詞節をつくるが、これは例外。

- 3 1 who[that], teaches 2 who[that], is, playing 3 which[that], was, written 4 who[that], lives 5 we, saw

#### 解説

さまざまな書きかえをしてみることで、「節」を使った修飾(＝関係代名詞を使った修飾)についての理解を深めましょう。

- 1 「私たちの理科の先生はユーモアのセンスがあります」：「私たちの理科の先生」を、「私たちに理科を教える先生」というように、節を使った表現に変える。
- 2 「ピアノをひいている少女は私の妹です」：現在分詞の句 (playing ～) による修飾を、関係代名詞の節 (who is playing ～) による修飾に変える。
- 3 「トムによって書かれた本はベストセラーになった」：過去分詞の句 (written ～) による修飾を、関係代名詞の節 (which was written ～) による修飾に変える。
- 4 「私にはオーストラリアに住んでいるおじがいます」：これも現在分詞の句を関係代名詞の節に変える。そのさい、live は状態を表す動詞なので、進行形にはしない。2 の書きかえとのちがいに注意。
- 5 「その少女をおぼえていますか。私たちは彼女をこの前の日曜日に見た」：2 つめの文 (We saw her ～) を、関係代名詞を使って節 (whom we saw ～) に変える。ただし、

whom は省略する。

- 4 1 The books I borrowed from Mary were very interesting. 2 She looked at the boy who was playing tennis with Tom. 3 The letter I received yesterday was from my aunt. 4 These are books that are popular at our library. 5 We must protect people and things that are important to us.

#### 解説

- 1 「私がメアリーから借りた本はとてもおもしろかった」：主語の The books が複数なので、be動詞は were になる。
- 2 「彼女はトムとテニスをしている少年を見た」：〈who+動詞…〉の形の節では、who は省略できない。
- 3 「きのう私が受けとった手紙はおばからのものだった」：〈(which)+主語+動詞…〉の形の節では、which (ここでは省略されている) が動詞の目的語の役割をするので、it は不要。
- 4 「これらは私たちの図書館で人気のある本です」：関係代名詞の that は books を受けているので、複数あつかいになる。
- 5 「私たちは自分たちにとってたいせつな人やものを守らなくてはならない」：people and things のような「人+人以外のもの」を修飾するときは、関係代名詞は that を使う。

#### Jump! 実戦力テスト ..... p.114-115

- 1 1 ウ 2 イ 3 エ 4 エ 5 ウ

#### 解説

- 1 「私はチェスのやり方を教えてくれる本をもっている」：もの (book) を修飾するときは、関係代名詞は which を使う。
- 2 「彼はアメリカでとても人気のあるジャズシ

ンガーです」：人 (singer) を修飾するときは、関係代名詞は who を使う。

- 3 「あなたがはいているくつは値段が高そうだ」：shoes を (which) you are wearing で修飾する (ただし、which は省略)。
- 4 「彼女が話をしていた男の人は有名な俳優でした」：man を (whom) she was talking to で修飾する。whom (ここでは省略されている) は前置詞 to の目的語の役割をしている。
- 5 「私たちが泊まったホテルはとても快適でした」：hotel を which we stayed at で修飾するところだが、stayed のあとに at がないので、その at を which の前におく。

- 2 1 you, like 2 John, took 3 who, had[has] 4 whose, hair 5 I, have (または、that, I've)

#### 解説

- 1 「あなたのいちばん好きなテレビ番組は何ですか」：「いちばん好きな」を関係代名詞の節 (you like the best) で表す。
- 2 「これは先週ジョンによって撮られた写真です」：「ジョンによって撮られた」を、「ジョンが撮った」と言いかえる。
- 3 「彼女は青い目をもつ男の子を見た」：with ～(～をもつ) を関係代名詞の節 (who had [has] ～) で言いかえる。
- 4 「スミス氏は白髪はくはしんの紳士です」：with white hair (白い髪をもつ) を whose hair is white (その髪が白い) で言いかえる。
- 5 「私はこんなに美しい日の入りを見たことがない」⇒「これは私がいままでに見た最も美しい日の入りです」：～ sunset を (that) I have ever seen で修飾する。

- 3 1 The people who live on this island are very friendly.

- 2 Is there anything I can do for you?
- 3 Paris is one of the cities that I want to visit.
- 4 This is the only train that goes to the airport.
- 5 This is the book I have been looking for.
- 6 In fact, what he said was not true.

#### 解説

- 1 「～に住む人びと」は people who live on ～ とする。
- 2 「～のために(何か)私にできること」は anything I can do for ～ とする。
- 3 「私が訪れたいと思っている都市」は cities that I want to visit とする。
- 4 「～へ行く(ただ1つの)列車」は (the only) train that goes to ～ とする。
- 5 「私が(ずっと)探していた本」は the book I have been looking for とする。look for は「探す」の意味。現在完了進行形を使う。
- 6 「彼が言ったこと」は、関係代名詞の what を使い、what he said とする。

- 4 1 Do you know anyone who can play the guitar? 2 Is this the bag (which[that]) you bought in France? 3 I like movies which[that] make me happy. 4 This is the best movie (that) he has ever made.

#### 解説

- 1 「だれか～をひける人」は anyone who can play ～ とする。
- 2 「～で買ったバッグ」は the bag (which) you bought in ～ とする。この which はしばしば省略される。
- 3 「自分を楽ししくしてくれる映画」は movies which make me happy とする。
- 4 「彼がいままでにつくった」は (that) he has ever made とする。

## Hop! 基礎確認テスト …… p.118-119

- 1 ① had, would ② practiced, could  
③ were, would ④ could, would  
⑤ wouldn't ⑥ If, had ⑦ If, were  
⑧ wish, had ⑨ wish, could  
⑩ wish, were

## 解説

「もしあした雨なら」というのは現実的な想定ですが、「もしも私があなただったら」というのは非現実的な想定です。この後者のような表現を「仮定法」といいます。

① 接続詞の if を使っただけでは仮定法の表現にはならないが、if 節の中の動詞を「過去形」にすると、現在の事実と反する仮定を表すことができる。ここでは have (もっている) を過去形にする。

また、if 節 (もしも…なら) を受けた帰結部分は、「～するだろうに」「～できるだろうに」といった意味になる。それも、助動詞 will や can の「過去形」である would や could を使って表す。

② If 節の中で使う動詞 practice (練習する) を過去形にし、帰結部分の「～を取れるのに」を could get ~ とする。

③ 仮定法の if 節の中で be 動詞を使うときは were にする。帰結部分は「～するだろうに」なので would を使う。

④ 仮定法の if 節の中で助動詞 can の過去形 could を使い、「もしも～できたら」という意味を表すことができる。

ここまでの、仮定法の文の基本形です。ここから先は、応用表現について見ていきますが、基

本は、過去形で「現在の事実と反する仮定」を表すということです。

⑤ 主語の An ordinary person に仮定の意味 (もしもふつうの人なら) がふくまれていると考えて、主語のあとの動詞の部分は would を使って表す。

⑥ 仮定法の if 節が独立した形の If only ~! で、「～でさえあれば (いいのになあ)」という「非現実的な願望」を表すことができる。動詞はもちろん過去形にする。

⑦ これも If only ~! の文。動詞が be 動詞なので、主語が he でも were にする。

⑧ If only ~! と同じような「非現実的な願望」を、(I wish + 主語 + 動詞…) の文でも表すことができる。wish は現在形だが、そのあとにくる動詞は過去形になる。

⑨ これも I wish ~. の文。動詞の前に助動詞がくるときは、助動詞を過去形 (ここでは could) にする。

⑩ これも I wish ~. の文。あとに <there is [are] ~> の文がきているが、この場合も be 動詞は過去形の were にする。

- 2 ① aren't ② don't ③ are, Yes  
④ he, was ⑤ if, I, was  
⑥ what, he, wanted ⑦ standing  
⑧ called ⑨ show ⑩ stolen

## 解説

付加疑問とは、相手に念をおしたり同意を求めたりするとき、文の末尾に付け加える疑問形式です。肯定文には否定形の、否定文には肯定形の付加疑問がつかます。

① You are ~ という be 動詞の肯定文には、否定形の aren't you? がつく。be 動詞の否定形の付加疑問は <be 動詞の否定の短縮形 + 代名詞 + ?> の形になる。

② You play ~ という一般動詞の肯定文には、否定形の don't you? がつく。

一般動詞の否定形の付加疑問は <don't + 代名詞 + ?> の形になる。don't は主語の人称や数、時制によって変化する。

③ You aren't ~ という be 動詞の否定文には、肯定形の are you? がつく。

否定文に付加疑問がつく場合は、応答に注意する必要がある。「はい」が否定の内容を表すために No になり、「いいえ」が肯定の内容を表すために Yes になる。

人が言ったことをそのまま伝えるのではなく、that 節や間接疑問を使って表すことを「間接話法」といいます。ここでは間接話法を使うときの注意点を確認しましょう。

④ 話しているのは「彼」なので、「私はいそがしい」の「私」は彼 (he) になる。

また、伝達動詞 (ここでは said) が過去形なので、節の中の動詞も過去形 (ここでは was) になる。これは⑤⑥も同じ。

⑤ 彼は「私」に話しかけているので、「あなたはいそがしいですか」の「あなた」は私 (I) になる。

疑問文を間接話法にするときは、接続詞の if (～かどうか) を使う。

⑥ 私は「彼」に話しかけているので「あなたは何をしたいのですか」の「あなた」は彼 (he) になる。

疑問詞を使った疑問文は、間接話法では間接疑問になる。

発展学習の最後に、「知覚動詞」と「使役動詞」について見ておきます。これらの動詞では、目的語のあとに、分詞や動詞の原形がくるのがポイントです。

⑦ <see + A + ~ing> で「A (目的語) が～しているのを見る」という意味になる。知覚を表す動詞がこの形の文をつくる。saw her standing とする。

⑧ <hear + A + 過去分詞> で「A が～される

のを聞く」という意味になる。知覚を表す動詞 (ほかに feel など) がこの形の文をつくる。heard my name called とする。

⑨ <have + A + 動詞の原形> で「A に～させる、してもらう」などの「使役」の意味を表す。

⑩ <have + A + 過去分詞> で「A を～される、してもらう」などの意味を表す。この形の文では、目的語 (A) と過去分詞が「受け身」の関係になる。

## Step! 実力養成テスト …… p.120-121

- 1 ① were ② rains ③ had ④ would  
⑤ can ⑥ could

## 解説

仮定法の文かどうかで、動詞や助動詞の使い方が変わります。If ではじまる文は、仮定法の時もあれば、そうでないときもあるので、特に注意が必要です。

① 帰結部分が would go to ~ となっていることから、仮定法の文だとわかる。したがって、If 節の動詞は過去形にする。

② 「あした雨がふったら」は、仮定法の文ではないので、ふつうの条件を表す節にする。現在形の動詞が入る。

③ If only ~! の形は仮定法の表現なので、動詞は過去形にする。

④ would like to ~ で「～したい」という意味。want to ~ をていねいにした言い方。仮定法から生まれた表現。

⑤ I hope ~ は仮定法の表現ではない。したがって、あとにくる動詞や助動詞は、仮定法で過去形になることはない。

⑥ I wish ~ は仮定法の表現なので、あとにくる動詞や助動詞は過去形になる。

- 2 ① didn't ② did ③ were ④ wasn't

解説

付加疑問は、ルールさえおぼえてしまえば、つくるのはそれほどむずかしくありません。

- ① 「あなたのお姉さんはその式典でスピーチをしたんですよ」：肯定文には否定形の付加疑問をつける。一般動詞の過去の文なので、didn't を使って否定形の付加疑問をつくる。
- ② 「あなたはきのうの夜、そのパーティーに行かなかったんですよ」：否定文には肯定形の付加疑問をつける。ここでは did を使う。
- ③ 「あなたはそのニュースにおどろかなかったんですよ」：否定文には肯定形の付加疑問をつける。主語に合わせて were を使う。
- ④ 「スミス先生はとてもいい先生でしたよね」：肯定文には否定形の付加疑問をつける。主語に合わせて wasn't を使う。

- 3 ① cry ② singing ③ washed ④ know ⑤ pulled ⑥ play

解説

知覚動詞や使役動詞は、〈動詞+目的語〉のあとにどんな形の動詞がくるかで意味がちがってくるので、そこに注目しましょう。

- ① 〈make + A + 動詞の原形〉で「A (目的語) に～させる」という意味になる。
- ② 〈hear + A + ~ing〉で「A が～しているのを聞く」という意味になる。〈hear + A + 動詞の原形〉の形もあるが、これだと「はじめからおわりまで聞く」という意味になり、ここでは不適切。
- ③ 〈have + A + 過去分詞〉で「A を～される、してもらう」という意味になる。ここでは「洗ってもらった」という意味。目的語と過去分詞の関係は〈車=洗われる〉という受け身の関係になる。
- ④ 〈let + A + 動詞の原形〉で「A に～させてあげる」という意味になる。この文 (Please let me know ~) は、相手に向かって「(私

に) ~を知らせてください (= 教えてください) と頼んでいる文。

- ⑤ 〈feel + A + 過去分詞〉で「A が～されるのを感じる」という意味になる。目的語と過去分詞の関係は〈うで=引っぱられる〉という受け身の関係になる。
- ⑥ 〈have + A + 動詞の原形〉で「A に～させる、してもらう」という意味になる。

- 4 ① I, was ② he, agreed, me ③ if, she, wanted ④ where, I, was

解説

直接話法 (= 話者のことばをそのまま伝えるやり方) を間接話法に変えるときに、特に注意したいのは、人物の人称の変化と、動詞の時制の変化です。

- ① 「私は彼女に『私はおなががすいています』と言った」：これは過去の会話なので、話の中の現在形の動詞 (am) は、間接話法では過去形 (was) にする。以下の②~④の問題も同じように考える。
- ② 「彼は私に『私はあなたに賛成です』と言った」：〈話し手: 彼、聞き手: 私〉⇒ 〈話の中の「私」= 彼、話の中の「あなた」= 私〉
- ③ 「彼は彼女に『あなたはその映画を見たいですか』と言った」：〈話し手: 彼、聞き手: 彼女〉⇒ 〈話の中の「あなた」= 彼女〉。話の中身は疑問文なので、if 節で表す。
- ④ 「彼女は私に『あなたはどこへ行きますか』と言った」：〈話し手: 彼女、聞き手: 私〉⇒ 〈話の中の「あなた」= 私〉。話の中身は疑問文を使った疑問文なので、間接疑問を使って表す。

Jump! 実戦カテスト ..... p.122-123

- 1 ① ウ ② ア ③ エ ④ ア ⑤ エ ⑥ エ

解説

- ① 「彼がいま生きていたらいいのになあ」：仮定法の文。過去形の were を使う。
- ② 「私は彼が駅のほうへ歩いているのを見た」：〈see + A + ~ing〉で「A が～しているのを見る」という意味になる。
- ③ 「もしも私が船をもっていたら、それで世界一周するのだが」：仮定法の帰結部分なので、過去形の助動詞 (would) を選ぶ。
- ④ 「私は兄にいっしょに来てもらった」：〈have + A + 動詞の原形〉の形にして「A に～してもらう」の意味を表す。
- ⑤ 「彼女は私に何か飲みものがほしいかとたずねた」：ふつうの疑問文を間接疑問にするときは接続詞の if (～かどうか) を使う。
- ⑥ 「あなたはギターをひけますよね」：助動詞 can を使った文の付加疑問。肯定文なので、否定形 (can't) の付加疑問をつける。

- 2 ① If only I could go back to my childhood! ② She told me she was too tired to walk any more. ③ You will help me with my homework, won't you? ④ You have no plans for tomorrow, do you?

解説

- ① 「子どものころにもどれたらいいのになあ」：仮定法の表現なので、助動詞の can を過去形に変える。
- ② 「彼女は私に、とてもつかれていてこれ以上歩けないと言った」：伝達動詞の told (= 過去形) に合わせて she was ... と過去形にする。
- ③ 「私の宿題を手伝ってくれるよね」：肯定文に対しては否定形 (ここでは won't を使う) の付加疑問をつける。
- ④ 「あしたの予定は何もないんだよね」：付加疑問にかんする応用問題。don't はないが、否定文なので、肯定形の付加疑問にする。

- 3 ① What would you like to drink? ② She heard someone cry for help. ③ He asked me why I was so angry. ④ If I could play the piano, I'd make a song for you. ⑤ Without water, we would not be able to live. ⑥ I had my foot stepped on in a crowded train.

解説

- ① 「～したい」は would like to ~ で表すことができる。これを疑問文で使う。
- ② 「人が～するのを聞く」は 〈hear + 人 + 動詞の原形〉で表す。
- ③ 「なぜ…怒っているのか」の部分、間接疑問の 〈why + 主語 + 動詞...〉の形で表す。
- ④ 「もしも～することができたら」を、仮定法の if 節で表す。If I could ~ となる。
- ⑤ Without ~ (～がなかったら) に仮定の意味がふくまれているので、「～できない」を仮定法として表現する。would not ~ となる。
- ⑥ 「足をふまれた」を、〈have + A + 過去分詞〉(A を～される) の形を使って表す。「～をふむ」は step on ~。

- 4 ① I wish I could sing like her. ② I had my hair cut yesterday. ③ You went to the festival, didn't you? ④ What would you do if you were rich?

解説

- ① 「～できたらいいのになあ」を、仮定法で表す。I wish I could ~ とする。
- ② 「髪を切ってもらいました」を、〈have + A + 過去分詞〉(A を～してもらう) の形で表す。
- ③ 「あなたは～に行きましたよね」は、You went to ~ に否定形の付加疑問をつける。
- ④ 仮定法で表す。if 節の中の動詞は過去形にする。if 節は文の前でも後ろでもよい。

# Challenge!

## 総合テスト

### 第1回 p.126-127

1 ①エ ②ア ③ア ④ウ ⑤ウ

#### 解説

- 「私はそのパーティーで彼女と話をして本当に楽しかった」: **enjoy** は動名詞を目的語にする。enjoy ~ingで「～して楽しむ」という意味。
- 「ワールドカップは4年ごとに(1回)開催される」: 「開催される」なので、受け身(**be**動詞+過去分詞)で表す。**hold**(～を開催する)を受け身にする。
- 「彼女がもどって来るまで部屋にいてください」: 時を表す副詞節をつくる。接続詞の**until**(～まで)を使う。
- 「まだはげしく雨がふっています。もう少しここにいてもいいですか」: 形式主語の**it**を使って、**Is it ... to ~**(～することは…ですか)という形の疑問文にする。**it**は**to stay here ~**をさしている。
- 「母は犬が好きではないので、(私たちに犬を)飼わせてくれないでしょう」: <let +人+動詞の原形>で「人に～させてあげる、～させる」という意味になる。なお、**have one**の**one**は**a dog**(不特定の犬)を表している。

2 ①How, old ②has, gone ③Be, or ④ago ⑤how, to, play

#### 解説

- 「法隆寺はいつ建てられましたか」⇒「法隆寺は建て何年(=何歳)ですか」: **How old**を使って言いかえる。**How old**は人間以外にも、さまざまなもの(樹木・建物・学校

など)に使うことができる。

- 「彼はオーストラリアへ行って、いま(彼は)ここにはいません」⇒「彼はオーストラリアへ行ってしまいました(いまはいない)」: 現在完了(**have**+過去分詞)の完了・結果を表す用法を使う。
- 「注意しないと(手や指を)切ってしまいますよ」⇒「注意なさい。さもないと(手や指を)切ってしまいますよ」: <命令文+or ...>(～しなさい、さもないと…)の形を使う。
- 「私はこの町に15年間住んでいる」⇒「15年前に私はこの町に住みはじめた」: もとの文が現在完了の継続を表す文だということをはまえて、内容的に言いかえる。
- 「ケンは今フルートを吹くことができません」⇒「ケンは今フルートの吹き方を知りません」: **how to ~**(～する方法、～のやり方)を使って言いかえる。

3 ① Do you have anything interesting to read? ② We are happy to have you with us this evening. ③ This is the book which my uncle gave me as a present. ④ Alice was able to speak Spanish best of all. ⑤ Will you tell me which book I should read? ⑥ She became one of the most famous artists in Japan.

#### 解説

- 「(何か)読み物」を**anything to read**(何か読むためのもの)で表す。**to read**は不定詞の形容詞的用法。また、**anything**の場合、形容詞(ここでは**interesting**)も後ろにおく。
- 「あなたが一緒にいてくれて」を**to have you with us**で表す。この不定詞は「感情の原因」を表す副詞的用法。
- 「私のおじさんが私にくれた本」を、関係代名

詞の**which**を使い、**the book which my uncle gave me**とする。

- 「全員の中で一番上手に」を、**well**(じょうずに)の最上級**best**を使い、**best of all**とする。副詞の最上級ではしばしば**the**が省略される。また、「話せた(=話すことができた)」は**was able to speak**で表す。
- 「どの本を読んだらいいか」は、間接疑問を使い、**which book I should read**とする。
- 「最も有名な芸術家の1人」は、**famous**の最上級を使い、**one of the most famous artists**とする。

4 ① I forgot to call her yesterday. ② I have known her for two years. ③ I'm glad (to find) that you like the picture. ④ If it is nice[sunny, fine] tomorrow, let's take a walk in the park.

#### 解説

- 「～するのを忘れる」は**forget to ~**で表す。**forget ~ing**にすると「～したことを忘れる」の意味になってしまう。
- 「2年前からの知り合い」⇒「2年間知っている」とおきかえ、現在完了の継続を表す用法を使って表す。
- 「～してくれて(=～してくれることが)うれしい」を**be glad that ~**で表す。また、「感情の原因」を表す不定詞を使い、**be glad to find that ~**(～ということがわかってうれしい)と表すこともできる。なお、どちらの場合も、接続詞の**that**は省略が可能。
- 「明日もし晴れたら」は未来のことを表しているが、**If**ではじまる副詞節では、未来のことでも動詞は現在形を使う。「～しましょう」は**let's ~**。「散歩する」は**take a walk**。

### 第2回 p.128-129

1 ①ウ ②エ ③ウ ④エ ⑤イ

#### 解説

- 「雨がふる前に家に帰ったほうがいい」: **before ~**は「時を表す副詞節」なので、未来のことも現在形で表す。
- 「先生は私たちに以前よりもっと一生けんめい英語を勉強するように言った」: <tell +人+to ~>で「人に～するように言う」の意味になる。
- 「私はアメリカにいるあいだに運転のしかたをおぼえた」: 後ろに文の形(**I was ~**)がくるので、前置詞の**during**ではなく接続詞の**while**を使う。
- 「仙台から東京まではどのくらいの距離ですか」: 距離をたずねるときは**How far**ではじめる。主語の**it**は距離を表している。
- 「ケンは今ソーダを1本全部飲みましたよね」: 一般動詞の過去の肯定文に対しては、**didn't**を使った否定形の付加疑問をつける。

2 ① where, lives ② are, sold ③ who[that], has ④ made, her ⑤ too, proud

#### 解説

- 「ホワイトさんの住所を知っていますか」⇒「ホワイトさんがどこに住んでいるか知っていますか」: 間接疑問(**where Mr. White lives**)を使って言いかえる。
- 「その市場では野菜を売っている」⇒「その市場では野菜が売られている」: 主語が**Vegetables**に変わっているので、受け身の文にする。もとの文の主語**They**は一般的な人(ここでは市場の人)を表している。
- 「青い目をもつその少年はオーストラリア出身です」: **with ~**(～をもっている)の意味を、

関係代名詞の **who** を使い、**who has ~** のようにして表す。

4 「彼の行儀が悪かった所以她は悲しかった」⇒「彼の行儀の悪さが彼女を悲しませた」：**make A B** (A を B にする) を使って表す。A = her で、B = sad となる。

5 「私の自尊心は私がお金を受け取ることを許さなかった」⇒「私は自尊心が強かったので、その金を受け取ることはできなかった」：名詞の **pride** を形容詞の **proud** に変え、**too ... to ~** (...すぎて~できない) の形を使って言いかえる。

3 1 That dog running in the garden is Mr. Suzuki's. 2 A short walk brought me to the art museum. 3 Please tell me what the island is like. 4 What a mysterious e-mail he sent me last night! 5 How many times have you been to Canada? 6 We didn't have as much rain this year as last year.

#### 解説

1 「庭を走っているあの犬」は、**That dog** を現在分詞の句 (**running in the garden**) が後ろから修飾する形で表す。

2 「少し歩くと~に着いた」を「短時間の歩行が私を~に連れて行った」という文で表す。**A short walk** を主語にするのがポイント。日本語にはない言い方。

3 **like** を「~のような」という意味の前置詞として使う。この **like** を使った疑問文 **What is ~ like?** は「~はどんなもの【人】ですか」という意味の決まった言い方。ここではそれを間接疑問 (**what ~ is like**) にして使う。

4 「なんて不思議なメール」を **<What + a + 形容詞 + 名詞>** の形で表し、あとに **<主語 + 動詞...!>** をつけて感嘆文にする。

5 「何回行ったことがありますか」は、**How many times** (何回) ではじまる現在完了 (経験) の疑問文で表す。「~へ行ったことがある」は **have been to ~** で表す。

6 「(今年は) ~ほど降らなかった」は、**not as ... as ~** の形を使い、**didn't have as much rain (this year) as ~** とする。**this year** は副詞句として使う。

4 1 How many hours does it take to fly to Australia? 2 I've used it since I started working five years ago. 3 Do you know why Mr. Yamada looks very tired? 4 Nothing is more important than family for me.

#### 解説

1 「オーストラリアへ飛行機で行くのに何時間かかりますか」[約8時間です]：形式主語の **it** を使い、「~へ飛行機で行くこと」を不定詞の句 (**to fly to ~**) で表す。「(時間が) かかる」は動詞の **take** で表す。

2 「このバッグをどのくらい使っているのですか」[5年前に動きはじめてからずっと使っています]：**since I started working** で「(私が) 動きはじめてから(ずっと)」という意味の副詞節になる。動詞の **start** は動名詞も不定詞も目的語にできる。

3 「なぜ山田さんがとてもつかれているように見えるのかわかりますか」[よくわかりませんが、彼は(このところ) とてもいそがしいんだと思います]：**why Mr. Yamada looks very tired** という間接疑問をつくるのがポイント。この **look** は「~に見える」という意味。

4 「ピーター、あなたの人生でいちばんたいせつなものは何ですか」[私にとって家族以上にたいせつなものはありません]：**Nothing is more ... than ~** (~より...なものはない) で最上級と同じ意味を表すことができる。

## 第3回 p.130-131

1 1 イ 2 イ 3 ア 4 ア 5 エ

#### 解説

1 「夕飯の用意ができましたよ」[わかった、ママ。いま行きます]：相手のほうへ「行く」というときは **come** を使う。**I'm coming** は、進行形で近未来を表す用法。

2 「ミチコの誕生日プレゼントに何を買いえばいいかわからないんです」[花を買ってはどうぞですか]：**what to buy** で「何を買いえばいいのか」という意味の名詞句になる。

3 「昨夜のパーティーにはどのくらいいたのですか」[午前0時までです]：前置詞の **until** (~まで) と **by** (~までに) のちがいに注意。

4 「何か書くものを持っていますか。えんぴつを忘れたんです」[いいですよ。青いペンでいいですか]：えんぴつを忘れたと言っていることから、**anything to write with** (何か書くもの) とする。この **with** は **write with a pen** (ペンで書く) というときの **with**。

5 「急いで、エマ、さもないと私たち、バスにおくられてしまう!」[心配しないで。数分で(=すぐに) 用意ができるから]：時の経過 (~たてば) を表す **in** を使う。

2 1 The building seen over there ... 2 When did Susan return from ... 3 ... One is black and the other is blue. 4 ... and I must buy a new one. 5 ... one of the greatest movies ...

#### 解説

1 「向こうに見える建物は私たちの学校です」：**building** は「見られる」側なので、**building seen over there** (向こうに見られる建物) とする。過去分詞の形容詞的用法。

2 「スーザンは長い旅からいつ帰ってきたので

すか」：**When** (いつ) が使われているので、現在完了は使わない。

3 「私はペンを2本もっています。1本は黒で、もう1本は青です」：ペンは2本なので、1本が決まると、もう1本は必然的に特定されるため、**the other** を使う。

4 「私はうで時計をなくしてしまったので、新しいのを買わなくてはならない」：“なくしたうで時計”をさす場合は **it** を使うが、単に“うで時計”をさす (=名詞 **watch** の代わりをする) 場合は、不定代名詞の **one** を使う。

5 「『タイタニック』は私がいままでに見た最もすばらしい映画の1本です」：<**one of the** +形容詞の最上級+名詞> (最も~なもの1つ) の形では、名詞は複数形になる。

3 1 let 2 taller, any 3 has, been 4 What, made 5 Few, students 6 he, had

#### 解説

1 「彼がいつ家に帰るのか知りたい」⇒「彼がいつ家に帰るのか知らせてください」：**let + 人 + know ~** で「人に~を知らせる」という意味になる。ここでは、人 = **me** (私)。

2 「ポールはクラスでいちばん背が高い生徒です」⇒「ポールはクラスのほかのどの生徒より背が高い」：比較の対象を **any other student** (ほかのどの生徒) にすることで最上級の意味を表す。

3 「これはユミの初めてのニュージーランド訪問となる」⇒「ユミはこれまで1度もニュージーランドへ行ったことがない」：現在完了の経験を表す用法を使う。なお、ここでは後ろに **to** があるので **visited** は使えない。**have been to ~** の形を使う。

4 「なぜあなたはそんなばかなことをしたのですか」⇒「何があなたにそんなばかなことをさせたのですか」：<**make** + 人 + 動詞の原形

(人に～させる)の形を使う。

- 5 「クラスのたいていの生徒はバイオリンをひけない」⇒「クラスのほとんどの生徒はバイオリンをひけない」：否定的な意味を表す few (ほとんど…ない)を使う。
- 6 「彼は私に、『私はその犯罪とは何の関係もない』と言った」を間接話法にする。〈話し手:彼〉⇒〈話中の「私」=彼(he)〉となる。動詞の have は、伝達動詞(told)に合わせ過去形の had にする。なお、have nothing to do with ～ は「～と関係がない」という意味の熟語。

4 ① Our lives are filled with things we need to do. ② Paul has been a member of the brass band since childhood. ③ You cannot make your dream come true without making efforts. ④ They make many times as much money as Jack does.

解説

- 1 「～だらけだ」は be filled with ～(～でいっぱいである)で表すので、with を補う。「やらなければならないこと」は things we need to do とする。we の前の目的格の関係代名詞は省略されている。
- 2 「…の頃から～に入っている(=～の一員である)」を、現在完了の継続用法を使って表す。has been a member of ～ とするので、been を補う。
- 3 「夢を実現させる」を make your dream come true で表す。come true は「実現する」の意味。「努力せずに」は without ～ing (～せずに)の形を使うので、without を補う。
- 4 「～と同じだけのお金を稼ぐ」なら make as much money as ～ だが、「何倍もお金」なので、many times as much money as ～ とする。times (～倍)を補う。

第4回 p.132-133

1 ① want ② for, us, to, win ③ never, seen ④ what, you ⑤ had[got], carried ⑥ if[whether], himself

解説

- 1 「あすのパーティーに何を持っていきましょうか」⇒「あすのパーティーに(私に)何を持ってきてほしいですか」：相手の意向をたずねる shall I ～ を、〈want + 人 + to ～〉(人に～してもらいたい)を使って言いかえる。
- 2 「私たちはその競走に楽に勝った」⇒「私たちが(=私たちには)その競走に勝つのは容易だった」：意味上の主語(for ～)のついた不定詞を使って表す。
- 3 「これは私がいままでに見た最高の映画です」⇒「私はこんないい映画をいままで見たことがありません」：現在完了の経験用法と such (そんな)を使って最上級の意味を表す。
- 4 「(あなたが)手に持っているものを見せなさい」：「～するもの」という意味の名詞節をつくる関係代名詞 what を使う。
- 5 「ホテルのボーイが私の荷物を運んだ」⇒「私はホテルのボーイに荷物を運んでもらった」：〈have[get] + A + 過去分詞〉(A を～される、してもらう)の形を使って表す。
- 6 「その男はとつぜん『ニック、あなたは(いま)ひとりですか』と言った」⇒「その男はとつぜんニックに、彼がひとりかどうかをたずねた」：疑問文を間接話法に変えるときは、接続詞の if か whether (～かどうか)を使う。また、たずねている相手はニックなので、by yourself は by himself に変える。

2 ① Please remember to take your coat when … ② … may I ask you how I can get to …

3 The woman you met yesterday … ④ … what she was saying … (または I don't understand …)

解説

- 1 「外出するときは忘れずにコートを持っていてください」：remember ～ing は「～したことをおぼえている」という意味。remember to ～ (忘れずに～する)の形にする。
- 2 「すみませんが、最寄りの駅へはどうやって行けばいいかお聞きしてもいいですか(直訳)」：間接疑問なので、how I can get to ～ という語順にする。
- 3 「あなたがきのう会った女性は私たちの数学の先生です」：you met の前の目的格の関係代名詞 (whom) が省略された形なので、met の目的語の her は不要。
- 4 「彼女がスピーチで何を言っているのか私には理解できなかった」：what 以下の間接疑問は過去のことを表しているの、動詞を過去形 (was) にする。

3 ① The country which I want to visit again is Switzerland. ② My father asked me to go shopping for him. ③ Her father repaired the window broken by the strong wind. ④ I'm looking for something to open this bottle with. ⑤ The job made her a very good speaker of French. ⑥ Lucy was taking care of a cat whose ears were badly damaged in a fight.

解説

- 1 「私が～したい国」を、関係代名詞の which を使って The country which I want to ～ とする。
- 2 「私に～してくれないかと頼んだ」を〈ask + 人 + to ～〉を使って表す。「買い物に行く」は

go shopping.

- 3 「強風で壊れた(=強風に壊された)窓」を、過去分詞の形容詞の用法を使って表す。the window broken by ～ となる。
- 4 「この瓶を開けるもの」を、不定詞の形容詞的用法を使って表す。something to open this bottle with となる。
- 5 「その仕事が彼女を大変上手にフランス語を話す人にした」という文にする。make A B (A を B にする)の形を使う。
- 6 「耳にひどいけがを負った猫」を、関係代名詞の whose を使って a cat whose ears were badly damaged とする。

4 ① How long [Since when] have you been friends? ② I ran to the station as fast as possible [I could] to catch the last train. ③ You should always be proud of being yourself. / You should be proud of being yourself anytime. ④ The tree (which [that]) I planted five years ago is as tall as I am. / … as tall as me.

解説

- 1 継続の期間をたずねる文なので、How long ではじまる現在完了(継続)の疑問文にする。
- 2 「全力で」は「できるだけ速く」と考えて as fast as possible [I could] とする。「～に間に合うように」は「目的」を表す不定詞を使って表す。「～に間に合う」は catch ～か、be in time for ～ で表す。
- 3 「君自身でいること」を be 動詞の動名詞を使って being yourself とするのがポイント。「～に誇りを持つ」は be proud of ～ で表す。
- 4 「僕が植えた木」は関係代名詞の節を使って表す。the tree (which) I planted となる。「僕の背丈と同じくらいだ」は as … as ～ (～と同じくらい…)の形を使って表す。